

平成 27 (2015) 年度後期

授業評価アンケート

分析報告書

平成 28 年 6 月 22 日

國學院大學

教育開発推進機構 教育開発センター



## 授業評価アンケート分析報告書の刊行に寄せて

教育開発センター長

柴崎 和夫

平成 27 年度後期の授業評価アンケートは、実施方法をこれまでとは変更しました。平成 27 年度前期までは紙ベースでアンケートを実施していましたが、平成 27 年度後期からは、K-SMAPY のアンケート機能を利用した Web アンケート方式に変更しました。そこに至る事情に関しては、本報告書で述べられていますのでご理解いただければと思います。

この Web アンケート実施にともなって、分析報告書作成に関しても変更を加えました。これまでは、分析も含め業者に依頼していた部分が多かったのですが、今回からは原則教育開発推進機構ですべてを作成することにしました。したがって、アンケートの分析に関しても機構の教員が行っています。Web アンケート方式を採用したことによって、これまででは得られなかった情報も得ることができるようになりました。新たに得られることになった情報を、どのように利用し、どのような分析を行うかは今後の課題です。今回は、これまで行っていた分析内容に大きな変更は加えていません。

授業評価アンケートに対しては、実施することに意味があるのかという議論もあることは承知しています。けれど、意味があるものにするのかどうかは、授業を行っている教員側の問題です。自身の授業内容・授業方法・授業計画の振り返りを行うときに、他者の目は大変重要です。それが、授業を受けている学生の目であるのですから、学生による授業評価アンケートは授業の振り返りに資する部分が一層大きいと考えられます。教育開発センターでは、授業評価アンケートの一つ一つの問いが、何を知るための目的で作られた問いなのかを明確にしたいと考えています。アンケート結果の意味をより明らかにするためであり、また教員が授業改善を考える手がかりとして利用していただきたいと考えるからです。教員の皆様は、学生が下した授業の評価を冷静に受け止め、授業改善に有効に利用してほしいと思います。また、機構としても、皆様に有効に使っていただけるような分析を提供してゆく努力を、今後も続けて行きたいと考えています。

最後に、授業評価アンケートは学生の協力があって実施できています。協力してくれた学生への説明責任を果たすためにも、今後はアンケート結果の全面公開も視野に入れて議論を積み重ねていきたいと考えています。教員の方々は、どうか分析結果を有効に利用していただきたいと思います。

## 目次

授業評価アンケート分析報告書の刊行に寄せて .....	3
1. 平成 27 年度からの変更点 .....	5
1-1 経緯 .....	6
1-2 WEB 化への経過 .....	7
2. 調査の概要 .....	9
2-1 調査目的 .....	10
2-2 調査方法 .....	10
2-3 調査対象科目 .....	10
2-4 調査期間 .....	11
2-5 回答率 .....	11
2-6 設問一覧 .....	12
3. 集計結果 .....	13
3-1 設問別集計（開講科目の所属別に集計） .....	14
3-2 専任教員の理解度・満足度順位（ベスト30） .....	24
4. 本学学士課程教育の授業外学修時間の現状 .....	29
4-1 学士課程全体 .....	30
4-2 回答学生の所属学部別 .....	31
4-3 回答学生の所属学科別 .....	32
4-4 回答学生の学年・所属学部別 .....	33
4-5 回答学生の学年・所属学科別 .....	34
4-6 回答学生の所属学科別にみた予習・復習への意欲と学修時間の差 .....	35
4-7 回答学生の予習・復習に対する意識と理解度による分析 .....	36
4-8 予習・復習への意欲と理解度の差からみた学修時間 .....	37
5. まとめ .....	43
資料編 .....	46
集計データ .....	47

## 1. 平成 27 年度からの変更点

## 1-1 経緯

國學院大學では平成 17 年度より、学生による授業評価アンケートを実施しています。この間、我が国の高等教育環境は、大きな変化を遂げてきました。それは 18 歳人口の減少が進む中、文部科学省中央教育審議会が、平成 20 年に「学士課程教育の構築に向けて」を、平成 24 年には「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」という 2 つの答申を公表したことにも顕著に現れています。これまでの日本における大学教育は、学部・学科という専門性に準拠した組織が、教学をマネジメントする縦割り型の「学部教育」という枠組みに依拠していました。ですが上記の答申は、大学教育で修得させるべき知識・能力をプログラム化し、学生のアウトカムに注目してプログラムの質的改善を目指すといった「学士課程教育」という枠組みへ移行することを、大学関係者に強く求めるものでした。

このような趨勢にあって、学士課程教育の質保証、すなわち「大学の教育力」に注目が集まるのは当然のことです。そのため教育開発推進機構教育開発センターでは、10 年の蓄積を有す学生による授業評価アンケートを、より効果的に利用することができないかと考えました。同アンケートは学生の授業に対する率直な感想・意見を広く収集できる貴重なツールです。また毎年度前期・後期と 2 回実施しており、経年で広くデータを蓄積することが可能です。さらには昨今の高等教育改革において、「教学 IR」「教学マネジメント」というキーワードをしばしば耳にしますが、そこでの方針を判断する貴重なデータのの一つとして、同アンケートに注目が集まっています。

そこで平成 27 年度に実施 11 年目を迎えるに当たり、教育開発センターでは、同アンケートのさらなる有効利用を目指して、実施形態、設問内容、分析方針・方法等の、積極的かつ抜本的な改善を検討しました。その結果、とりあえず平成 27 年度は実施形態の見直しに最も注力することとし、これまでの学生にアンケート用紙を配布する紙媒体での実施から、本学の学生支援システムである K-SMAPY での実施へと切り替えました（WEB 化）。同アンケートの WEB 化は、他大学でも進んでいるところです。今後は授業評価アンケートのデータと、学内のさまざまなデータとを統合させる基盤を構築することで、より質の高い授業を学生に提供し、本学学士課程教育の質的向上を図ることを目指します。なお設問内容と分析方針・方法等については、平成 28 年度実施分から大きな変更を予定しています。しかしながら平成 27 年度後期分においても、設問内容の点では授業科目あたりの授業外学修時間を尋ねる設問を追加し、分析方針・方法の点では、教育開発センターに所属する教職員が分析報告書を作成することにしました。

## 1-2 WEB化への経過

月 日	審 議 ・ 協 議 内 容
平成 27 年 6 月 17 日	第 3 回教育開発センター委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業評価アンケートのWEB化に向けたパイロット・スタディ（案）を審議</li> <li>● パイロット・スタディ実施対象科目、実施方法の決定</li> </ul>
6 月 24 日	平成 27 年度前期授業評価アンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 上記と平行してパイロット・スタディも実施</li> </ul>
7 月 21 日	平成 27 年度前期授業評価アンケートを終了
7 月 22 日	第 4 回教育開発センター委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>● パイロット・スタディ回答率（速報）の報告</li> <li>● 平成 27 年度後期授業評価アンケートを K-SMAPY で全面的に実施することが決定</li> </ul>
9 月 30 日	第 5 回教育開発センター委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 後期授業評価アンケート設問項目の検討</li> <li>● パイロット・スタディ自由記述の回覧（委員会メンバーに限定）</li> <li>● 9 月 21 日付けで教務部長・共通教育センター長より「学士課程教育に係る本学の学修管理制度の改善策について」が、教育開発センターへ依頼される。</li> </ul>
10 月 15 日	教育開発推進機構教職員・教務課・システム課での実施に向けた打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教務部委員会より学修時間を問う設問について設問文の検討依頼が提出される</li> </ul>
10 月 28 日	第 6 回教育開発センター委員会開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 後期授業評価アンケート WEB 化に関する実施方針の検討</li> </ul>
11 月 18 日	第 7 回教育開発センター委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施方針を最終決定</li> <li>● 業評価アンケート教員向け実施マニュアルの検討</li> </ul>
12 月 16 日	平成 27 年度後期授業評価アンケートを実施

平成 28 年 1 月 25 日	平成 27 年度後期授業評価アンケートを終了
---------------------	------------------------

平成 27 年度後期授業評価アンケート実施までの過程



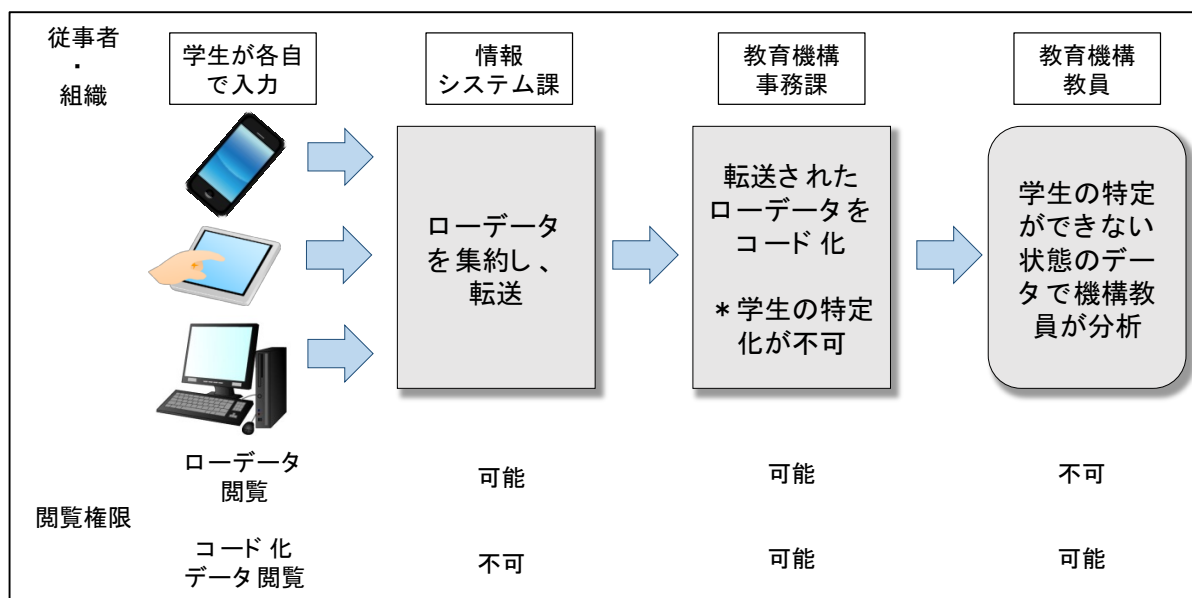
## 2. 調査の概要

## 2-1 調査目的

本学学生の授業に対する取り組みの実態を把握し、授業改善の基礎資料とすること、さらには基礎資料の活用により教員に自らの授業運営を振り返る機会を提供することで、学修効果を改善させ、本学学士課程教育の質保証を達成することを目的とする。

## 2-2 調査方法

- 従前のアンケート用紙の配布による紙媒体での実施から、本学の学生支援システムである K-SMAPY による実施へ変更（WEB 化）
- K-SMAPY での実施に伴い配慮すべき学生個人情報の管理については、教育開発センター委員会での議論に従い、細心の注意を払う体制を構築する。
- 具体的な調査手順・体制は、以下のとおり。



平成 27 年度後期授業評価アンケートの実施方法と各課職員及び教員の役割

## 2-3 調査対象科目

- 原則、全授業科目を対象とするが、下記の授業科目については、実施を見送った。
  - 卒業論文指導科目
  - 政治インターンシップ
  - インターンシップⅡ
  - 教育実習ⅠB（事後指導）
  - 博物館実習Ⅲ（実地見学）
  - その他、サマーセッション等の集中講義科目

## 2-4 調査期間

平成27年12月16日(水)～平成28年1月25日(月)

## 2-5 回答率

回答件数	33,078 件
履修登録者数	106,065 件
回答率	31.2%

## 2-6 設問一覧

### 平成 27 年度後期授業評価アンケート全設問項目

タイプ	新 No	平成 27 年度後期授業評価アンケートの 質問項目
教員対象	Q1	教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。
	Q2	板書や教材は理解の助けになりましたか。
	Q3	教員は意欲的に授業を進めていましたか。
	Q4	教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。
	Q5	他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。
	Q6	授業の内容はシラバスに沿っていましたか。
学生対象	Q7	この授業にどの程度出席しましたか。
	Q8	シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。
	Q9	予習・復習をするなど授業に意欲的にとりくみましたか。
	Q10	この授業を理解できましたか。
	Q11	授業のテーマへの関心が高まりましたか。
	Q12	この授業を履修して良かったですか。
	Q13	この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。 * 人間開発学部の授業科目のみ回答して下さい。
	Q14	この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。
	Q15	あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。
	Q16	この授業 1 回あたりの授業外学修（予習復習課題等）時間は、平均でおおよそ何分ですか。*0 分から 300 分の範囲で、算用数字で記入して下さい。 例 95
Q17	この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。	
共通	Q18	この授業でとても良いと思ったことを書いてください。
	Q19	この授業で改善した方が良いと思ったことを書いてください。

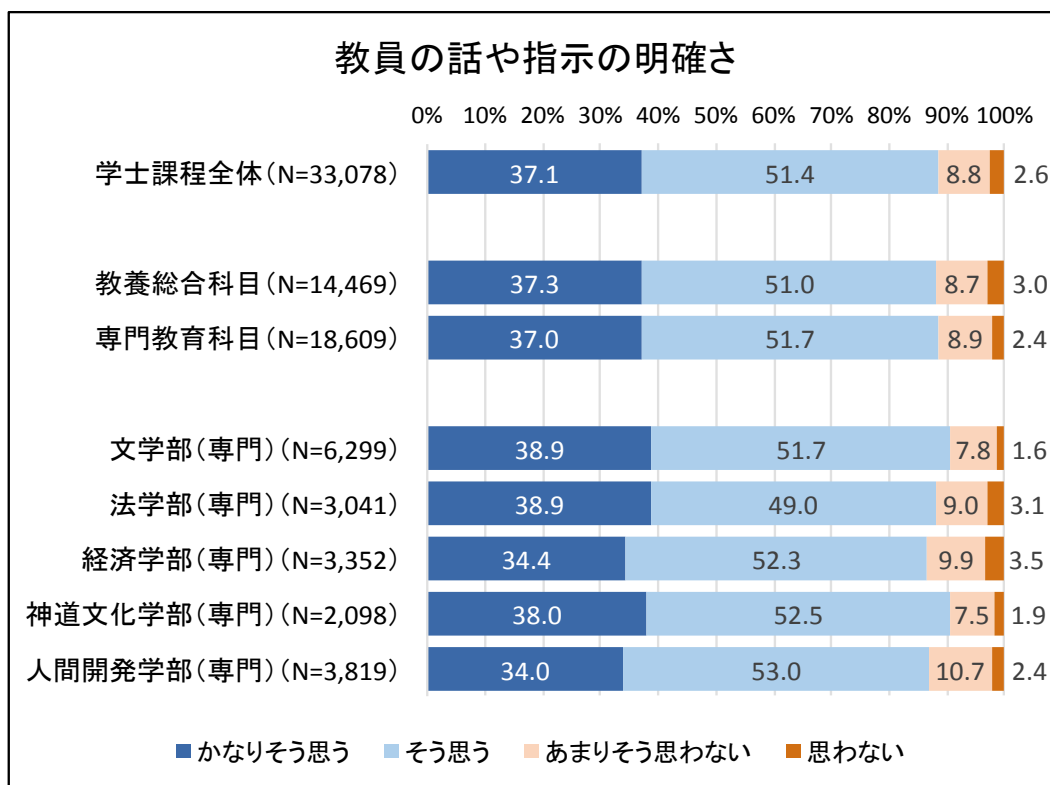
(注意点)

- 原則、平成 27 年度前期までの授業評価アンケートの設問項目を統合した形式とした。
- ただし Q13 と Q16 を実験的に追加した。
- Q1～Q6、Q8～Q15、Q17 は 4 件法、Q 6 は 6 件法であり、Q16 は算用数字による実数値の入力とし、Q18・Q19 は自由記述形式とした。

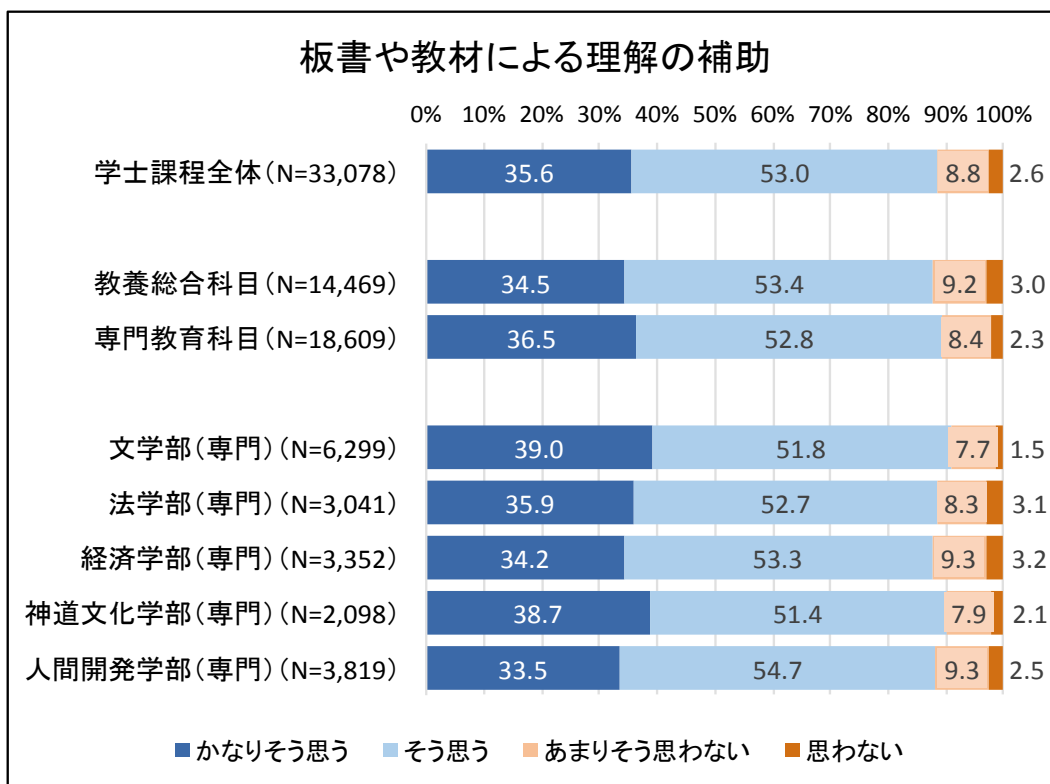
### 3. 集計結果

### 3-1 設問別集計（開講科目の所属別に集計）

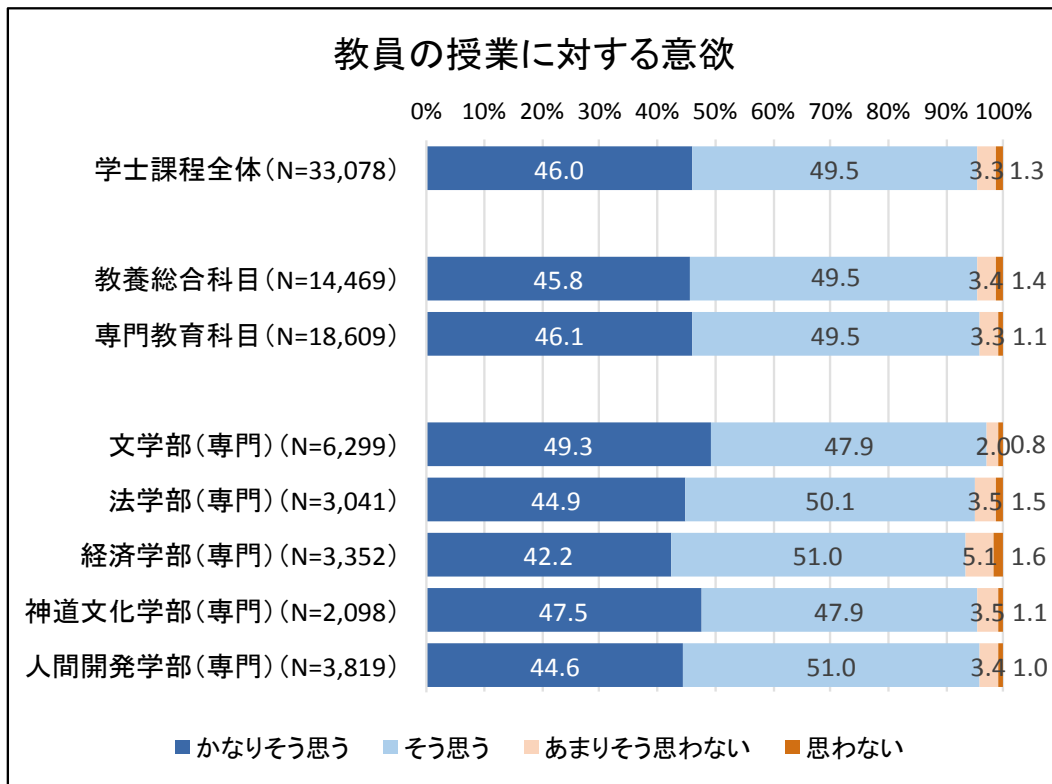
Q1 教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。



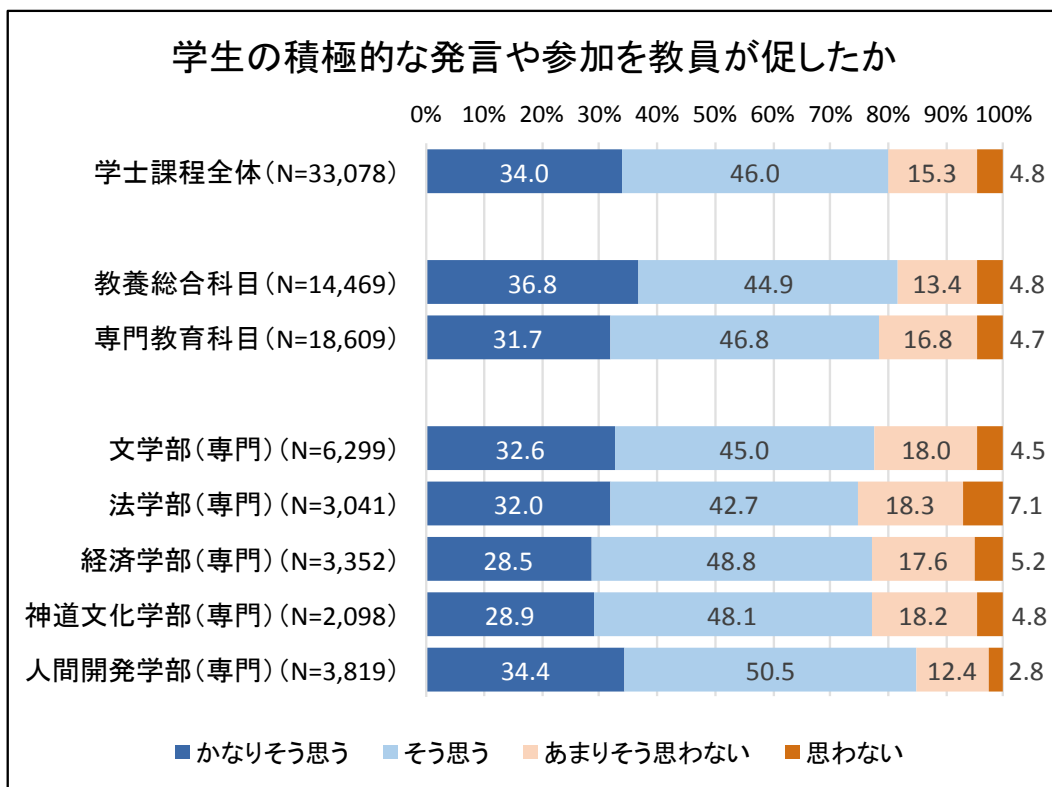
Q2 板書や教材は理解の助けになりましたか。



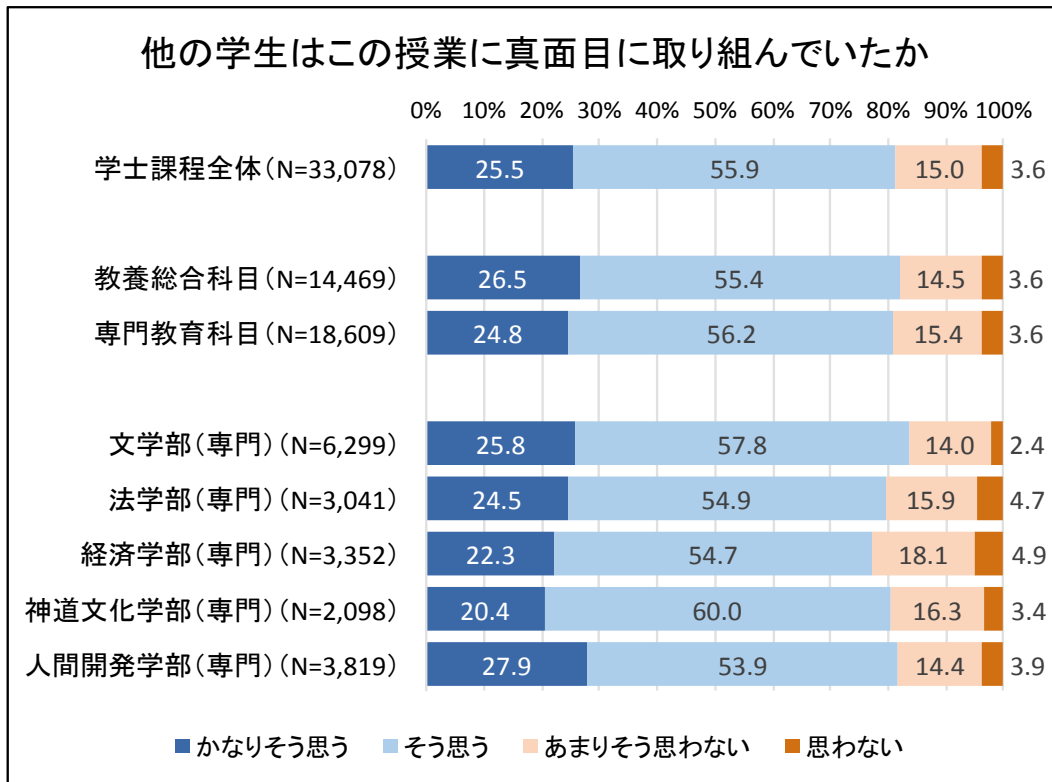
Q3 教員は意欲的に授業を進めていましたか。



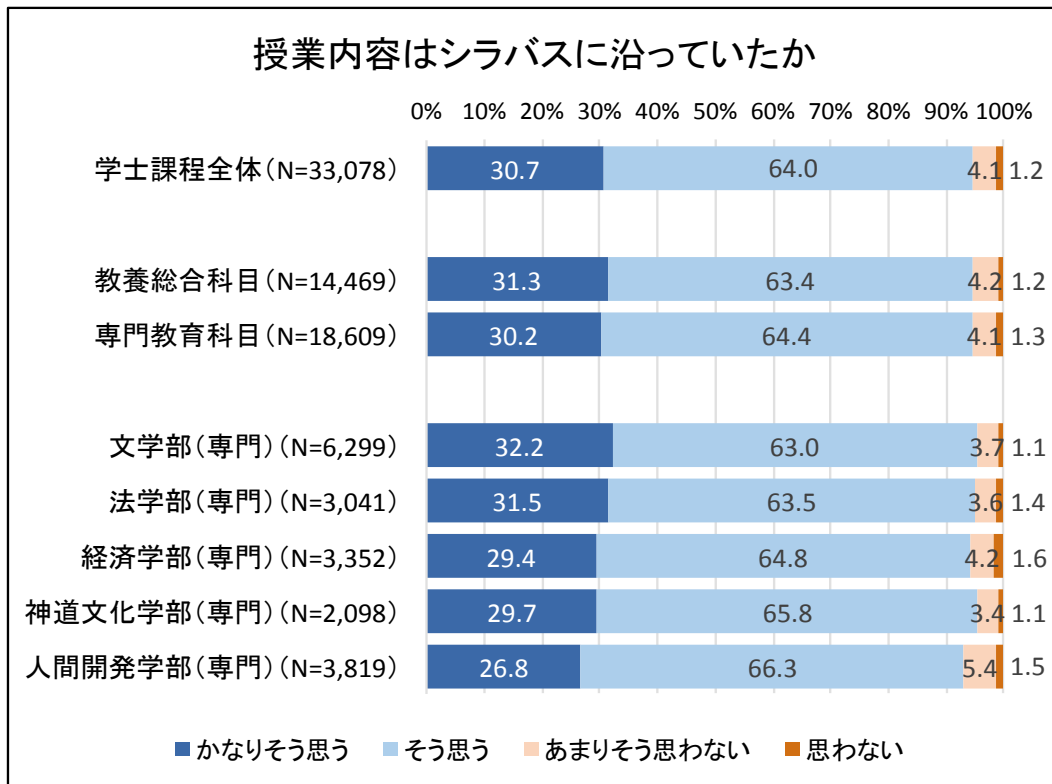
Q4 教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。



Q5 他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。

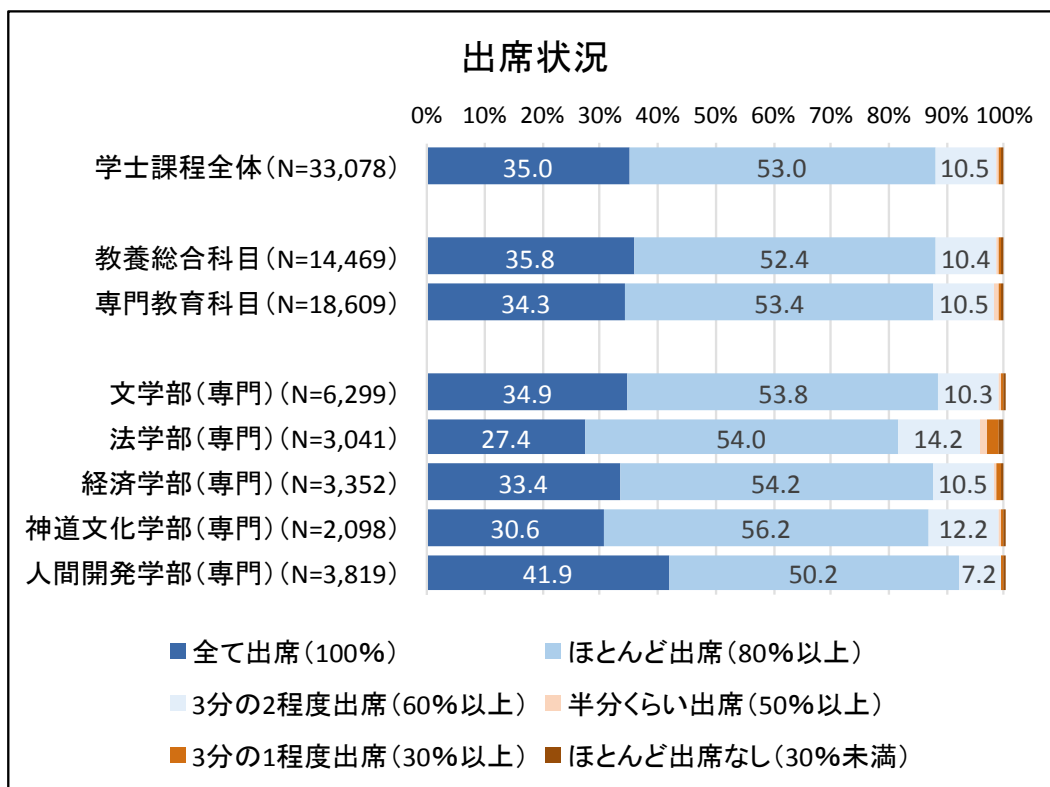


Q6 授業の内容はシラバスに沿っていましたか。

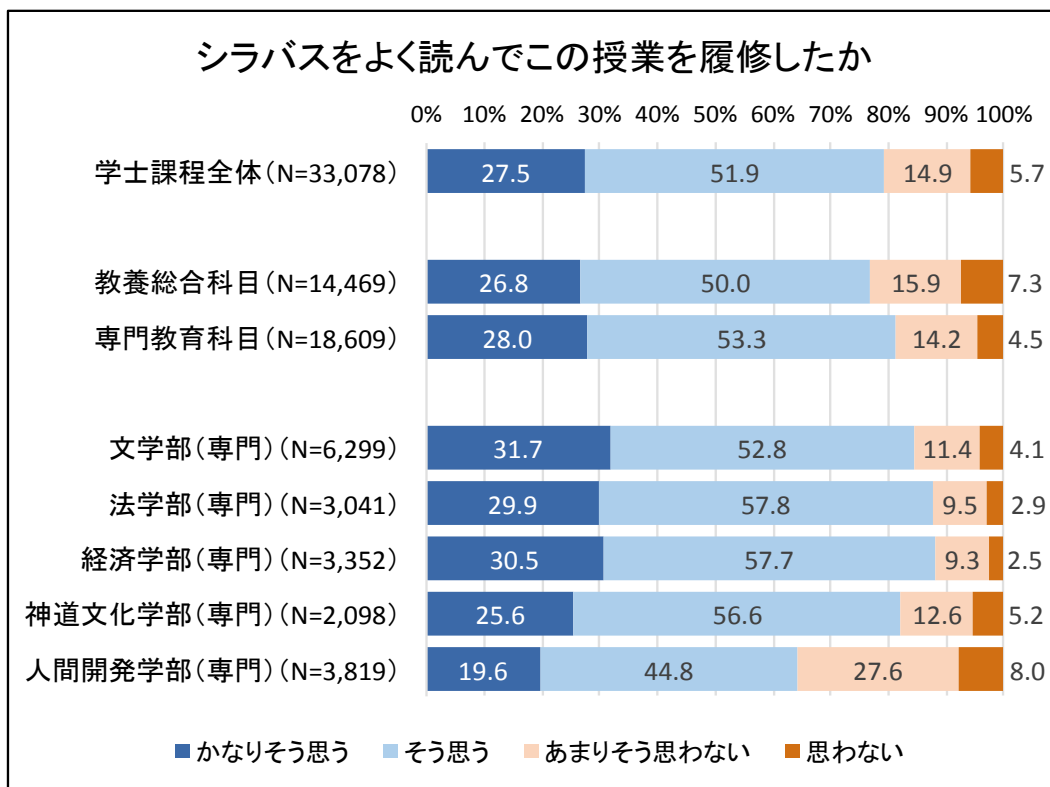




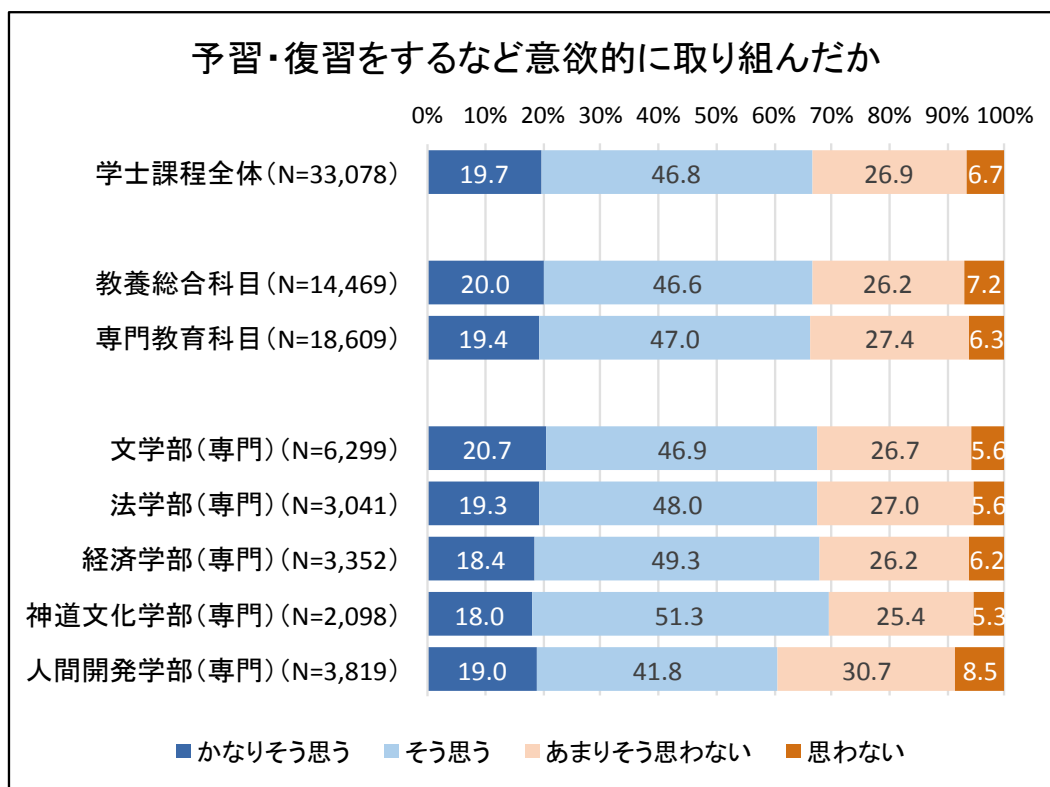
Q7 この授業にどの程度出席しましたか。



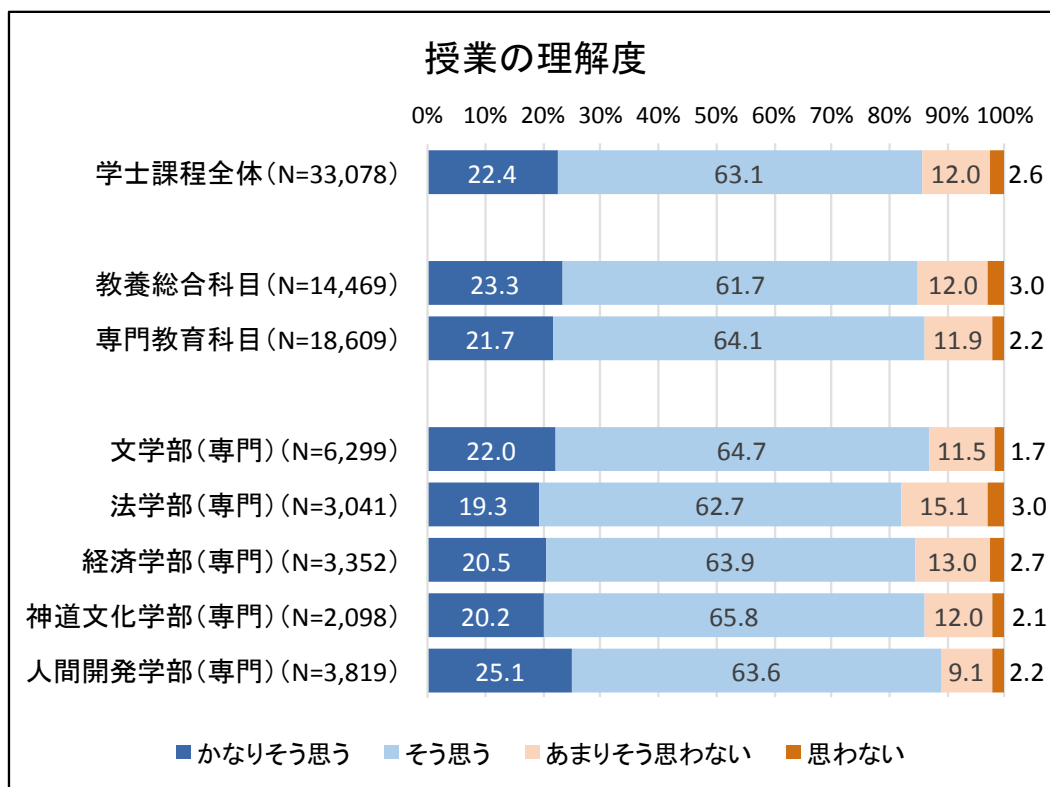
Q8 シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。



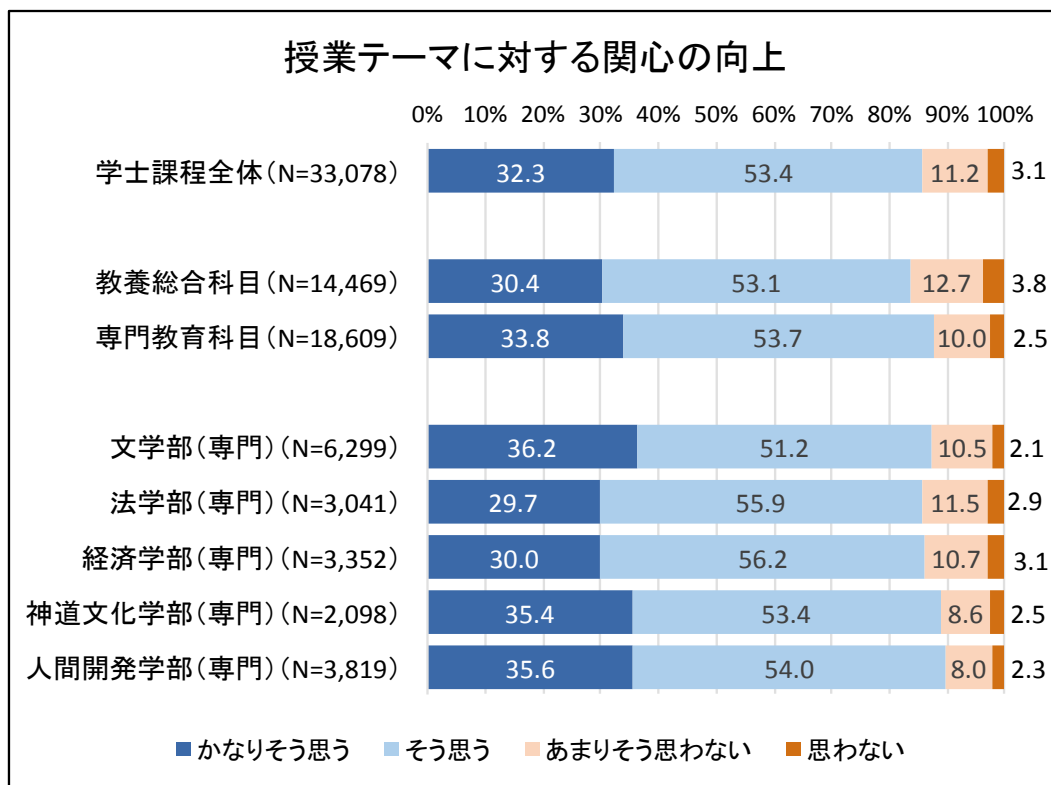
Q9 予習・復習をするなど授業に意欲的に取り組みましたか。



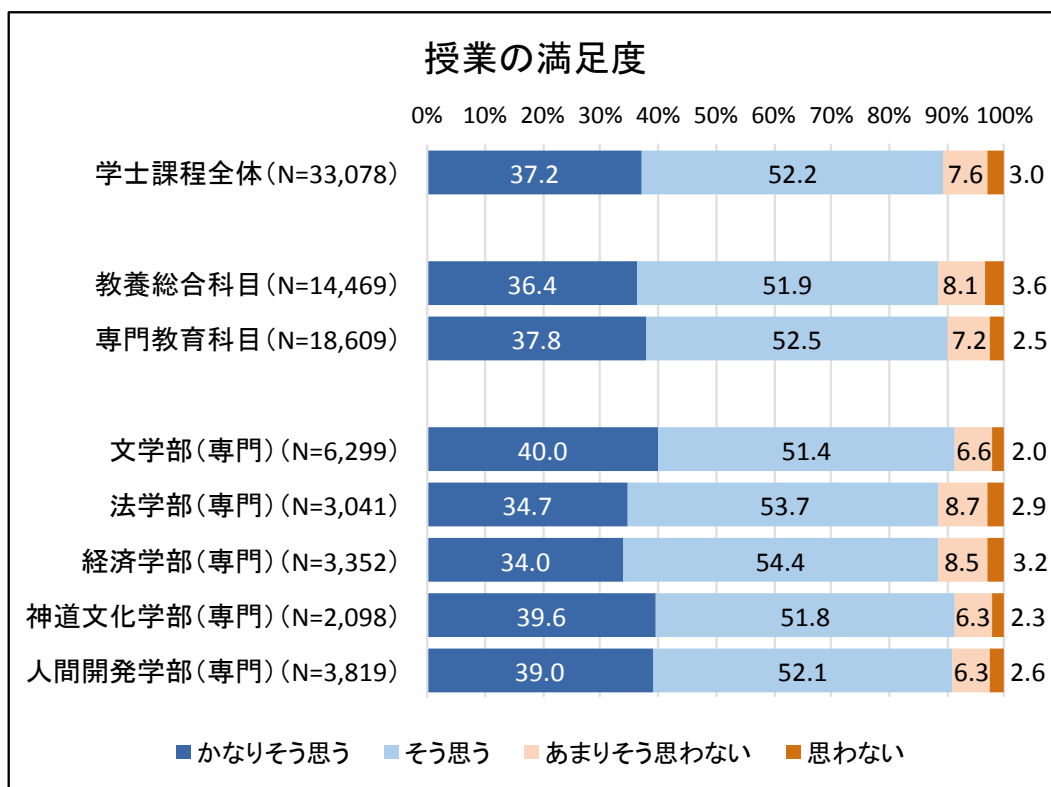
Q10 この授業を理解できましたか。



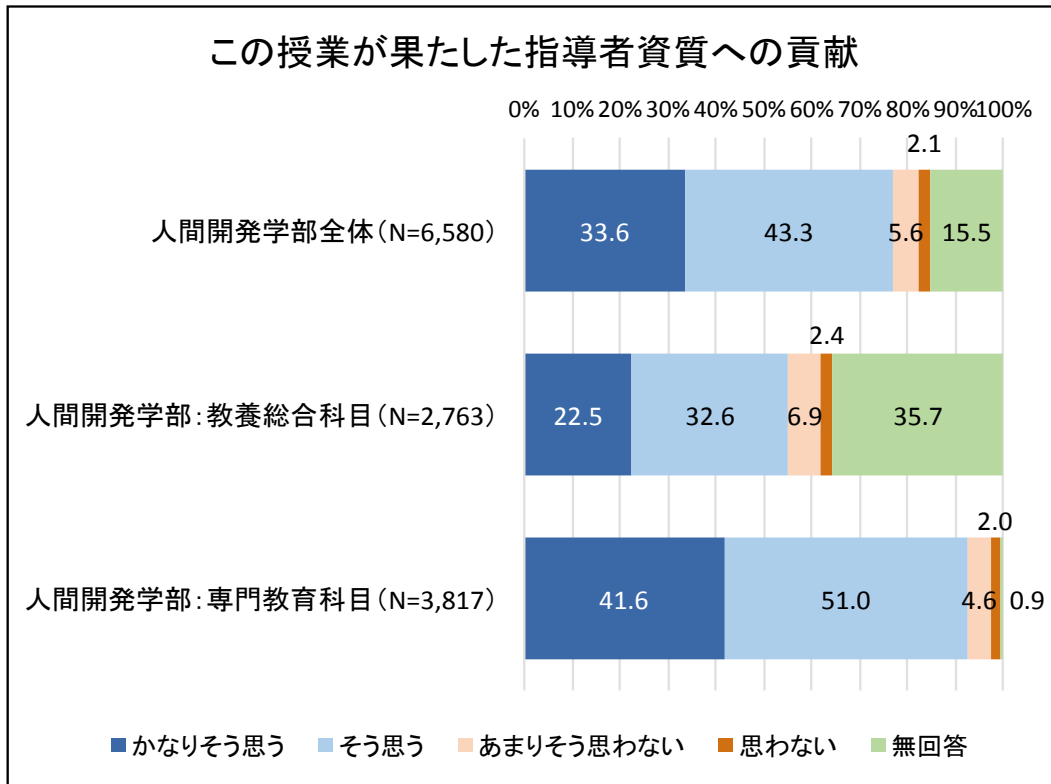
Q11 授業のテーマへの関心が高まりましたか。



Q12 この授業を履修して良かったですか。

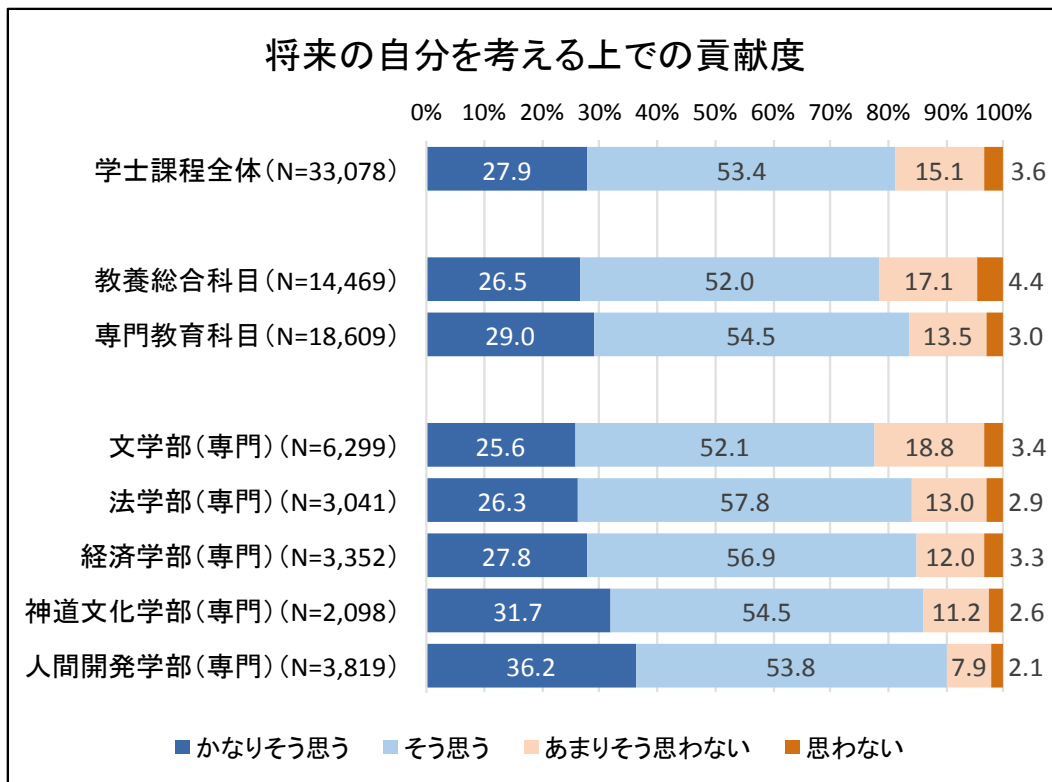


Q13 この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。

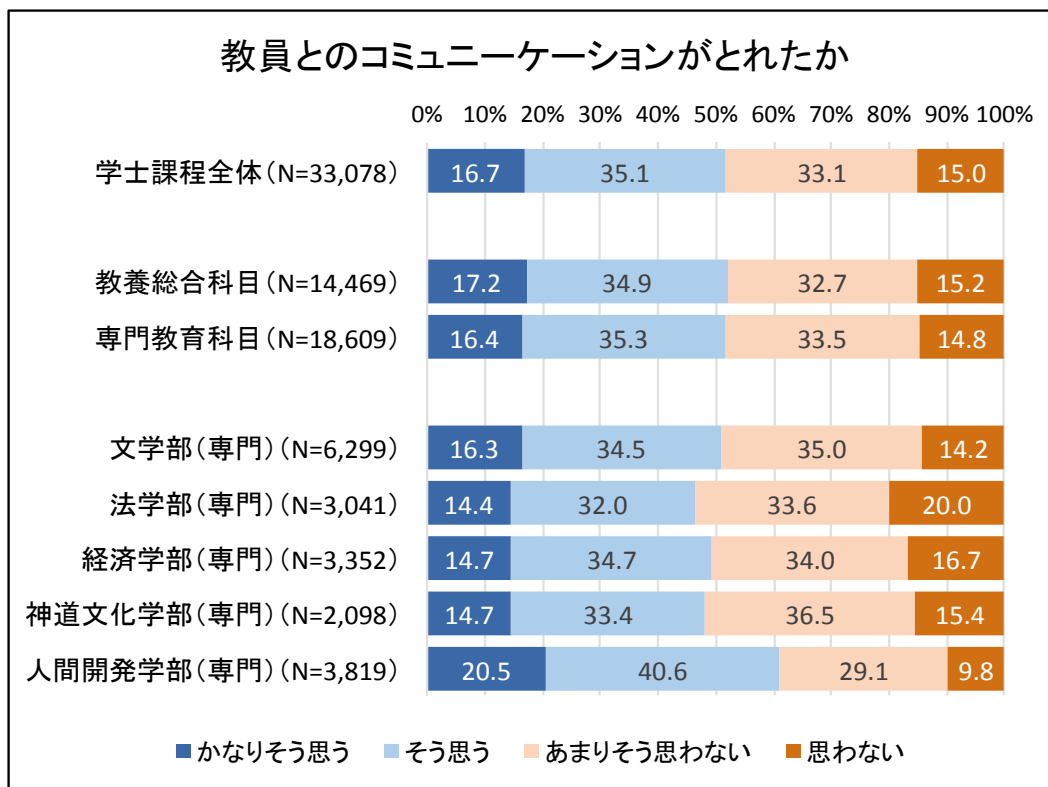


注) 本設問は人間開発学部の開講科目のみで集計

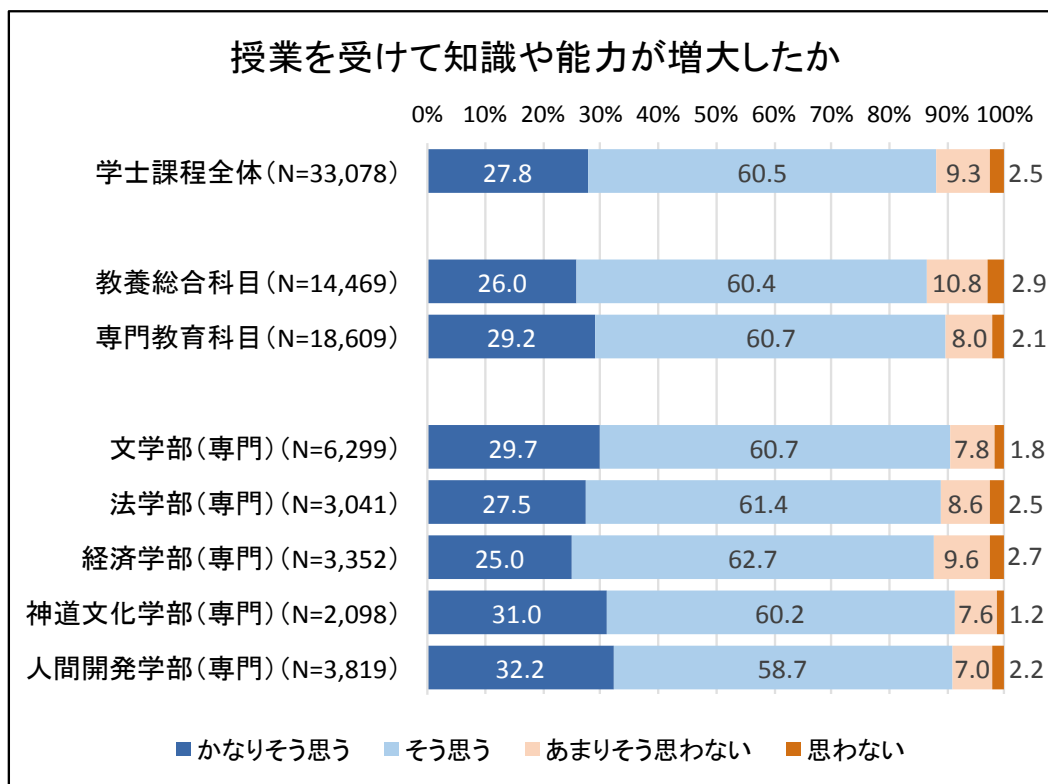
Q14 この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。



Q15 あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。



Q17 この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。



## 集計結果の総評

- 本学の授業評価アンケートは、Q1～Q6までが教員を対象に授業運営の観点から、Q7～Q17は学生を対象に授業の受講経験という観点から、設問が構成されています。
- 教員を対象とした6つの設問の集計結果をみると、概ね肯定的な評価が得られました。これは例年と同様の結果となっています。ただし詳細にみると設問間でバラつきがあるようです。
- 「教員の授業に対する意欲」(Q3)は、「かなりそう思う」だけで42.2%～49.3%となり、「そう思う」と合算すれば、どの区分でも約95%にもなります。
- 「教員の話や指示の明確さ」(Q1)、「板書や教材が果たす理解の補助」(Q2)、「学生の積極的な発言や参加を教員が促したか」(Q4)では「かなりそう思う」がほぼ30%台で分布しており、「そう思う」と合算してみても、先ほどのQ3とは分布に差があるようです。
- 「授業内容はシラバスに沿っていたか」(Q6)、さらには「他の学生はこの授業に真面目に取り組んでいたか」(Q5)に関しては、「かなりそう思う」が20%台から30%台前半と、上の集計結果とは明らかに異なる分布となっています。(Q6)は授業設計上、(Q5)は授業空間(教室)のコントロールや、履修学生のモチベーションに少なからず影響をあたえる要素であり、より肯定的な回答が得られることが期待されます。

- 他方で、学生を対象とした設問の集計結果をみてみましょう。「出席状況」(Q7)は「全て出席」と「ほとんど出席」で約90%となります。
- 「シラバスをよく読んでこの授業を履修したか」(Q8)は、学部間でばらつきがあり、専門科目で見ると文学部と人間開発学部とでは、「かなりそう思う」で12.1ポイントの差がありました。
- 「予習・復習をするなど意欲的に取り組んだか」(Q9)では、「あまりそう思わない」と「そう思わない」で30%以上になるようです。後述する授業外学修時間は、予習と復習の意識の差により顕著な差があることが明らかになりました。ですのでこの点について、担当教員がどの程度の授業外学習時間を課し、それに対して学生がどのような姿勢であるのか、現状を明らかにすることが必要だと考えます。
- 「授業の理解度」(Q10)と「授業テーマに対する関心の向上」(Q11)は、「かなりそう思う」と「そう思う」で80%を超えており、「授業の満足度」(Q12)は、ほぼ90%にまで達しました。
- 人間開発学部の開講科目のみを集計の対象とした「この授業が果たした指導者資質への貢献」(Q13)は、教養総合科目と専門教育科目とで大きな差がありました。前者は「かなりそう思う」と「そう思う」の合計が55.1%、後者は92.6%という結果になりました。
- 「将来の自分を考える上での貢献度」(Q14)は、学部間でばらつきがあり、「かなりそう思う」と答えた学生の分布は人間開発学部で36.2%、文学部で25.6%と10.6ポイントもの差がありました。
- 「教員とのコミュニケーションがとれたか」(Q15)については、「思わない」と「そう思わない」で50%近くに達していることが目につきます。これについても学部間で比較的大きな格差があるようにみえます。
- 最後に「授業を受けて知識や能力が増大したか」(Q17)については、「かなりそう思う」と「そう思う」とで90%近くに達する結果となりました。

### 3-2 専任教員の理解度・満足度順位（ベスト30）

#### 【算出方法】

1) 教員が担当した授業科目のアンケート結果を1つに集計。

例

教員名	授業科目名	回答数
國學 太郎	國學院の歴史	21
國學 太郎	神道精神	11
國學 太郎	日本の伝統	38
こくびょん	文学概論	14
こくびょん	日本文学入門	6



教員名	回答数
國學 太郎	70
こくびょん	20

2) 上記の集計をした後、合計回答数が30人以上の教員を対象とする。

（注 例年は50人以上だが、今回はWEB化初年度により回答者数が少ないため30人とした。）

例

教員名	回答数	
國學 太郎	70	← 対象
こくびょん	20	← 対象外

3) 理解度はQ10、満足度はQ12の回答結果から、加重平均により点数化。

例

國學太郎先生の場合（理解度・満足度ともに同様の計算式とする）

教員氏名：國學 太郎	回答数	配点	回答数×配点＝点数
かなりそう思う	15件	4点	60点
そう思う	30件	3点	90点
あまりそう思わない	22件	2点	44点
そう思わない	3件	1点	3点
合計	70件		197点

理解度または満足度点数  $197 \div 70 = \underline{2.814}$  点

4) 上記の理解度または満足度点数の高い順に、ベスト30教員を選出



## 専任教員理解度ベスト30

順位	教員氏名	回答数	回答率	得点	かなりそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	思わない
1	村上 佳司	109	80.7%	3,578	58.7%	40.4%	0.9%	0.0%
2	高山 実佐	68	40.5%	3,544	54.4%	45.6%	0.0%	0.0%
3	吉永 安里	71	44.9%	3,479	47.9%	52.1%	0.0%	0.0%
4	田嶋 一	147	69.0%	3,435	45.6%	52.4%	2.0%	0.0%
5	小野 和伸	65	24.7%	3,431	44.6%	53.8%	1.5%	0.0%
6	中川 孝博	73	23.0%	3,425	43.8%	54.8%	1.4%	0.0%
7	山岡 敬和	51	30.4%	3,412	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%
8	東海林 孝一	52	20.0%	3,404	42.3%	55.8%	1.9%	0.0%
9	橋本 貴朗	30	47.6%	3,400	43.3%	53.3%	3.3%	0.0%
10	林 貢一郎	89	64.5%	3,393	40.4%	58.4%	1.1%	0.0%
11	高橋 昌一郎	106	10.2%	3,368	40.6%	55.7%	3.8%	0.0%
12	高橋 尚子	44	19.8%	3,364	45.5%	47.7%	4.5%	2.3%
13	宮下 雄治	202	54.0%	3,356	36.6%	62.4%	1.0%	0.0%
13	齋藤 智哉	73	31.6%	3,356	37.0%	61.6%	1.4%	0.0%
15	山西 治男	32	42.1%	3,313	34.4%	62.5%	3.1%	0.0%
16	渡邊 雅俊	61	22.6%	3,311	32.8%	65.6%	1.6%	0.0%
16	大津 直子	119	68.4%	3,311	37.0%	58.0%	4.2%	0.8%
18	青木 豊	34	15.2%	3,294	29.4%	70.6%	0.0%	0.0%
19	杉田 洋	144	40.4%	3,292	33.3%	62.5%	4.2%	0.0%
20	藤澤 紫	149	28.7%	3,282	35.6%	59.1%	3.4%	2.0%
21	植原 吉朗	51	44.0%	3,275	31.4%	66.7%	0.0%	2.0%
22	安田 恵美	96	52.5%	3,271	31.3%	65.6%	2.1%	1.0%
23	飯倉 義之	253	43.8%	3,265	30.4%	66.0%	3.2%	0.4%
24	小原 薫	46	15.3%	3,239	32.6%	58.7%	8.7%	0.0%
25	石川 則夫	59	76.6%	3,237	25.4%	72.9%	1.7%	0.0%
26	中田 有祐	34	14.6%	3,235	35.3%	52.9%	11.8%	0.0%
26	高山 真琴	115	86.5%	3,235	29.6%	65.2%	4.3%	0.9%
28	藤嶋 亮	172	48.0%	3,233	31.4%	61.0%	7.0%	0.6%
29	高屋 景一	61	17.7%	3,230	32.8%	57.4%	9.8%	0.0%
30	渡邊 卓	90	63.4%	3,211	30.0%	63.3%	4.4%	2.2%

## 専任教員満足度ベスト30

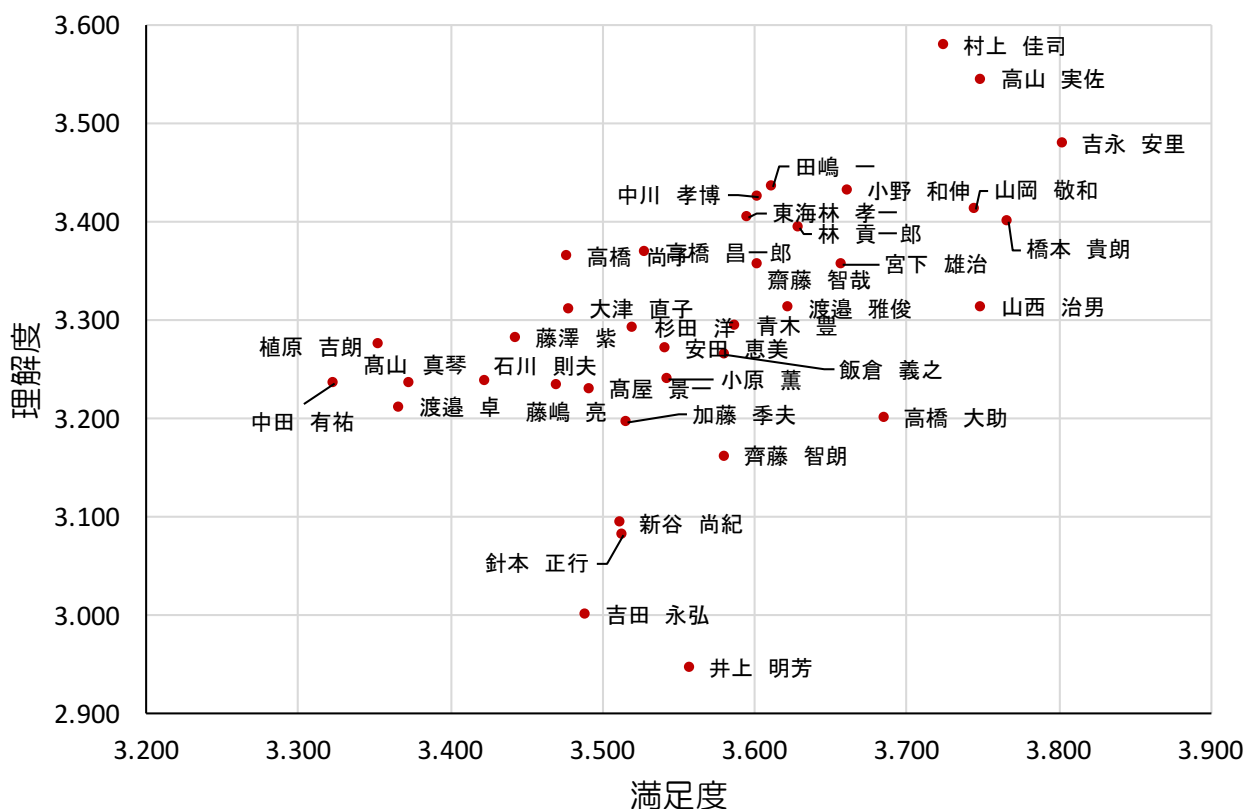
順位	教員氏名	回答数	回答率	得点	かなりそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	思わない
1	吉永 安里	71	44.9%	3.803	80.3%	19.7%	0.0%	0.0%
2	橋本 貴朗	30	47.6%	3.767	76.7%	23.3%	0.0%	0.0%
3	高山 実佐	68	40.5%	3.750	76.5%	22.1%	1.5%	0.0%
3	山西 治男	32	42.1%	3.750	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
5	山岡 敬和	51	30.4%	3.745	76.5%	21.6%	2.0%	0.0%
6	村上 佳司	109	80.7%	3.725	75.2%	22.9%	0.9%	0.9%
7	高橋 大助	35	24.3%	3.686	68.6%	31.4%	0.0%	0.0%
8	小野 和伸	65	24.7%	3.662	67.7%	30.8%	1.5%	0.0%
9	宮下 雄治	202	54.0%	3.658	67.8%	30.7%	1.0%	0.5%
10	林 貢一郎	89	64.5%	3.629	64.0%	34.8%	1.1%	0.0%
11	渡邊 雅俊	61	22.6%	3.623	62.3%	37.7%	0.0%	0.0%
12	田嶋 一	147	69.0%	3.612	63.3%	34.7%	2.0%	0.0%
13	齋藤 智哉	73	31.6%	3.603	63.0%	34.2%	2.7%	0.0%
13	中川 孝博	73	23.0%	3.603	68.5%	24.7%	5.5%	1.4%
15	東海林 孝一	52	20.0%	3.596	63.5%	34.6%	0.0%	1.9%
16	青木 豊	34	15.2%	3.588	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
17	飯倉 義之	253	43.8%	3.581	60.1%	38.7%	0.4%	0.8%
17	齋藤 智朗	31	31.3%	3.581	58.1%	41.9%	0.0%	0.0%
19	井上 明芳	113	75.8%	3.558	61.9%	32.7%	4.4%	0.9%
20	小原 薫	46	15.3%	3.543	56.5%	41.3%	2.2%	0.0%
21	安田 恵美	96	52.5%	3.542	60.4%	35.4%	2.1%	2.1%
22	高橋 昌一郎	106	10.2%	3.528	56.6%	39.6%	3.8%	0.0%
23	杉田 洋	144	40.4%	3.521	54.9%	42.4%	2.8%	0.0%
24	加藤 季夫	122	20.7%	3.516	51.6%	48.4%	0.0%	0.0%
25	針本 正行	37	84.1%	3.514	56.8%	37.8%	5.4%	0.0%
26	新谷 尚紀	43	21.2%	3.512	55.8%	41.9%	0.0%	2.3%
27	高屋 景一	61	17.7%	3.492	52.5%	44.3%	3.3%	0.0%
28	吉田 永弘	49	24.5%	3.490	59.2%	34.7%	2.0%	4.1%
29	大津 直子	119	68.4%	3.479	54.6%	39.5%	5.0%	0.8%
30	高橋 尚子	44	19.8%	3.477	52.3%	43.2%	4.5%	0.0%

## 専任教員理解度・満足度ベスト30

下記の図は、専任教員のうち理解度ベスト30または満足度ベスト30のどちらかにランキングした教員を対象に、縦軸に理解度の点数を、横軸に満足度の点数をプロットして、図示したものです。

教員は常により良い授業を実施できるよう努めています。授業計画や内容の工夫はもちろん、同じ事柄でもどのような教授法を採用することで、学生の理解度はより高まるのか。またそれによって授業内容の満足度が向上し、学問に対する興味や関心を喚起できるのか。1回1回の授業を大切に、不断の授業改善に努めています。

理解度または満足度ベスト30専任教員の分布



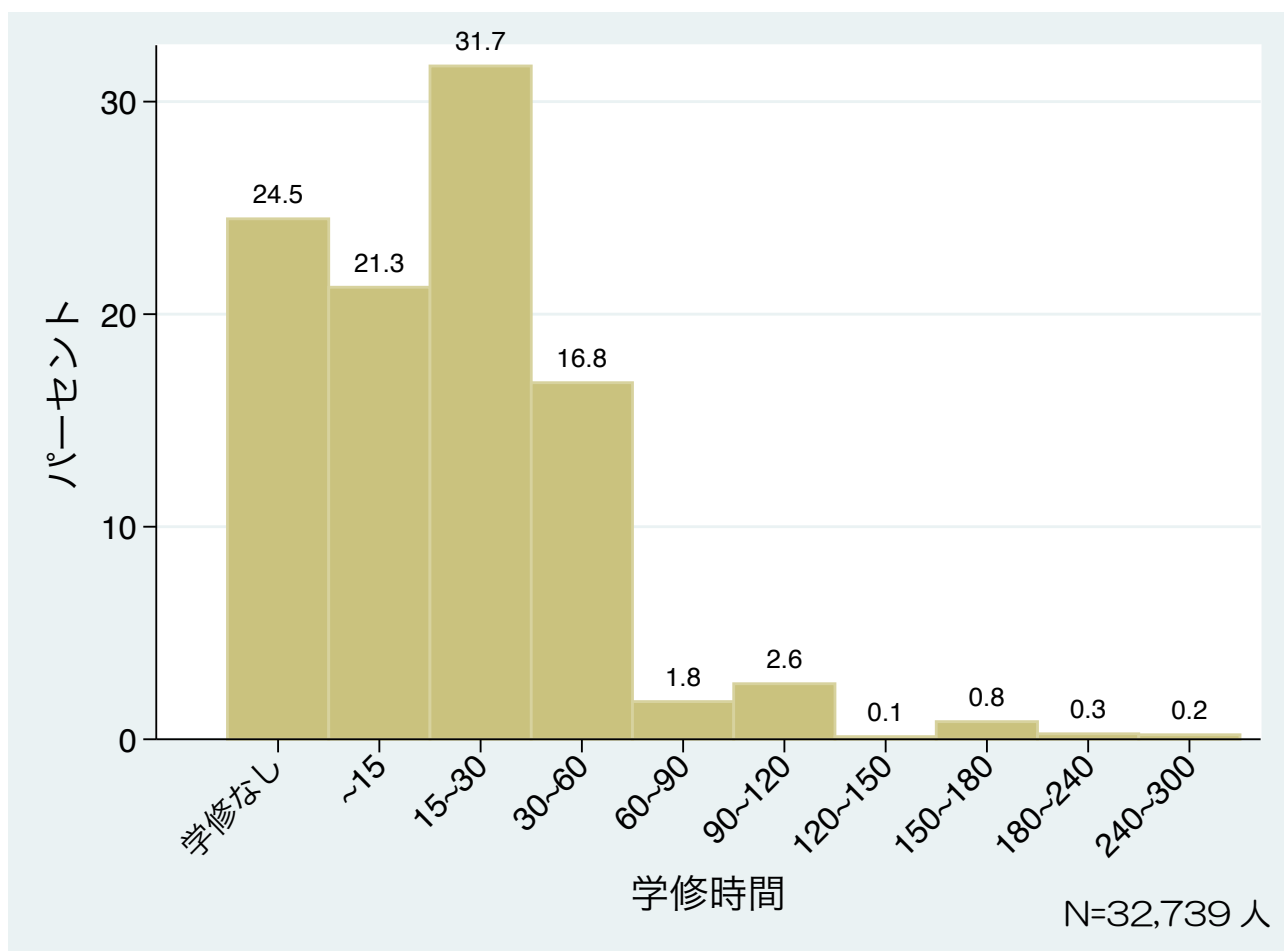
注 回答者数が30人以上の教員を対象としている。



#### 4. 本学学士課程教育の授業外学修時間の現状

#### 4-1 学士課程全体

本学学士課程教育の1科目あたりの授業外学修時間は、平均で27.9分（中央値が20分）という調査結果となりました。下のグラフは本学学士課程全体における授業外学修時間の分布をみたものです。回答が多かった時間区分をしてみると、15分～30分以下と回答した学生が31.7%と最も多く、次いで学修なし（ゼロ）が24.5%、15分以下21.3%となり、学修なし～15分以下で全体の45.8%と、ほぼ5割を占める結果となりました。なお1科目あたりの授業外学修時間が1時間を超えた学生は、全体の5.8%という結果になりました。

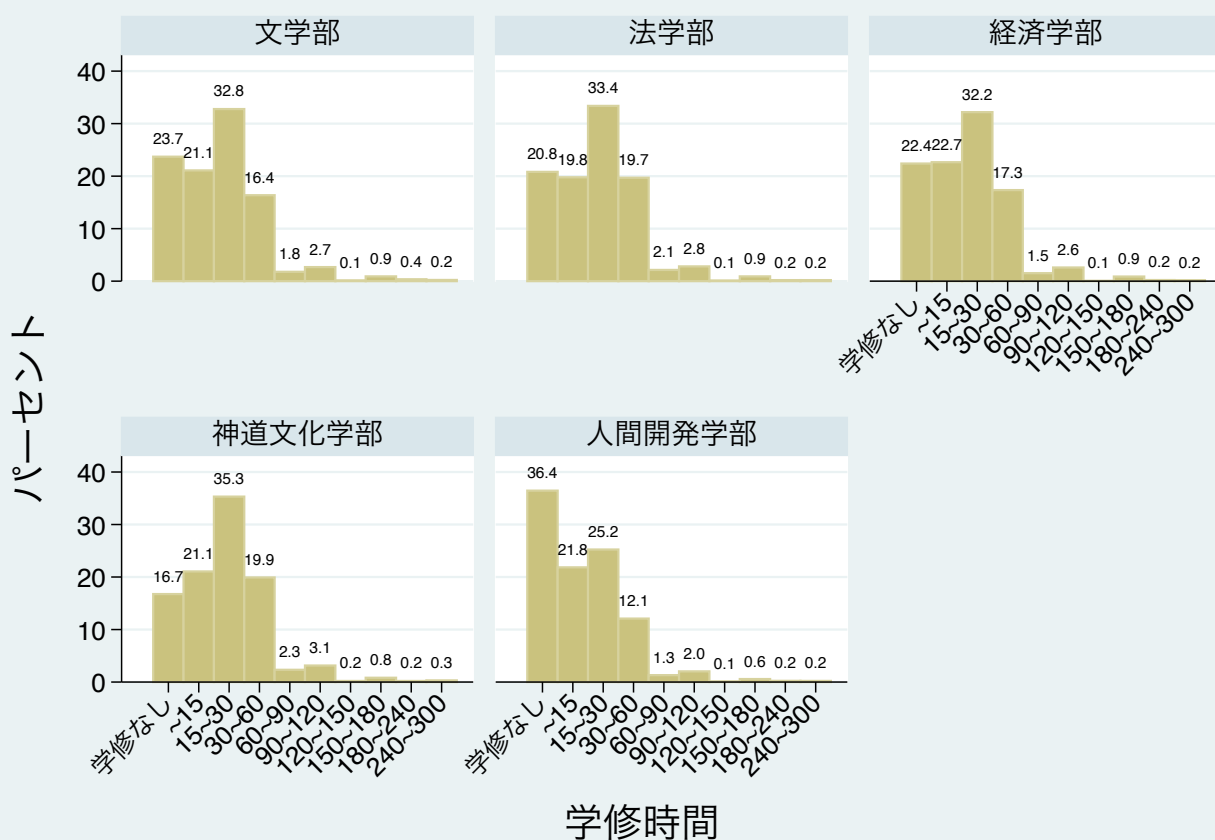


学士課程全体における学修時間の分布

## 4-2 回答学生の所属学部別

下のグラフは、1科目あたりの授業外学修時間の分布を、アンケートに回答した学生の所属学部ごとに分けて示したものです。まず学修時間の平均は、文学部で28.5分、法学部で30.3分、経済学部で28.9分、神道文化学部で31.7分、人間開発学部で21.7分でした。中央値は10～30分で分布しています。

学修なし（ゼロ）～15分以下で40%未満となったのは、神道文化学部のみでした。1科目あたりの授業外学修時間が1時間を超えた学生は、どの学部でも数%という結果になりました。

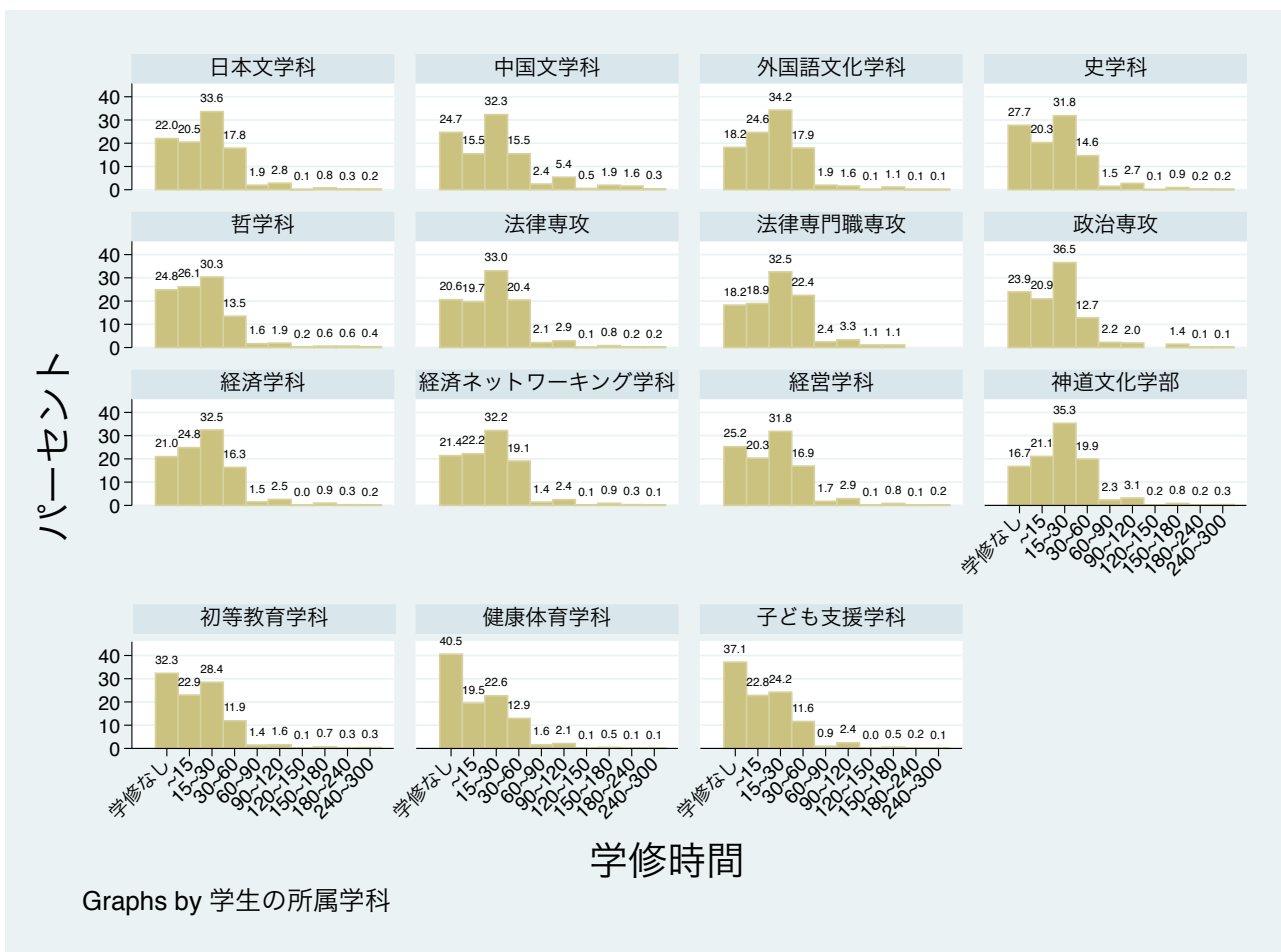


Graphs by 学生の所属学部

学生の所属学部別にみた学修時間の分布

### 4-3 回答学生の所属学科別

下のグラフは、1科目あたりの授業外学修時間の分布を、アンケートに回答した学生の所属学科ごとに分けて示したものです。全体的な傾向として、人間開発学部を除く4学部では、15分～30分以下と回答した学生が大きいことがわかりました。人間開発学部では学部単位だけでなく、学科単位で見ても学修なしと答えた学生が多い傾向にあるようです。人間開発学部を除く4学部では、30分以上の学修時間を確保することが、人間開発学部ではとりあえず学修ゼロの学生を減らすことが、当面の課題であるといえそうです。

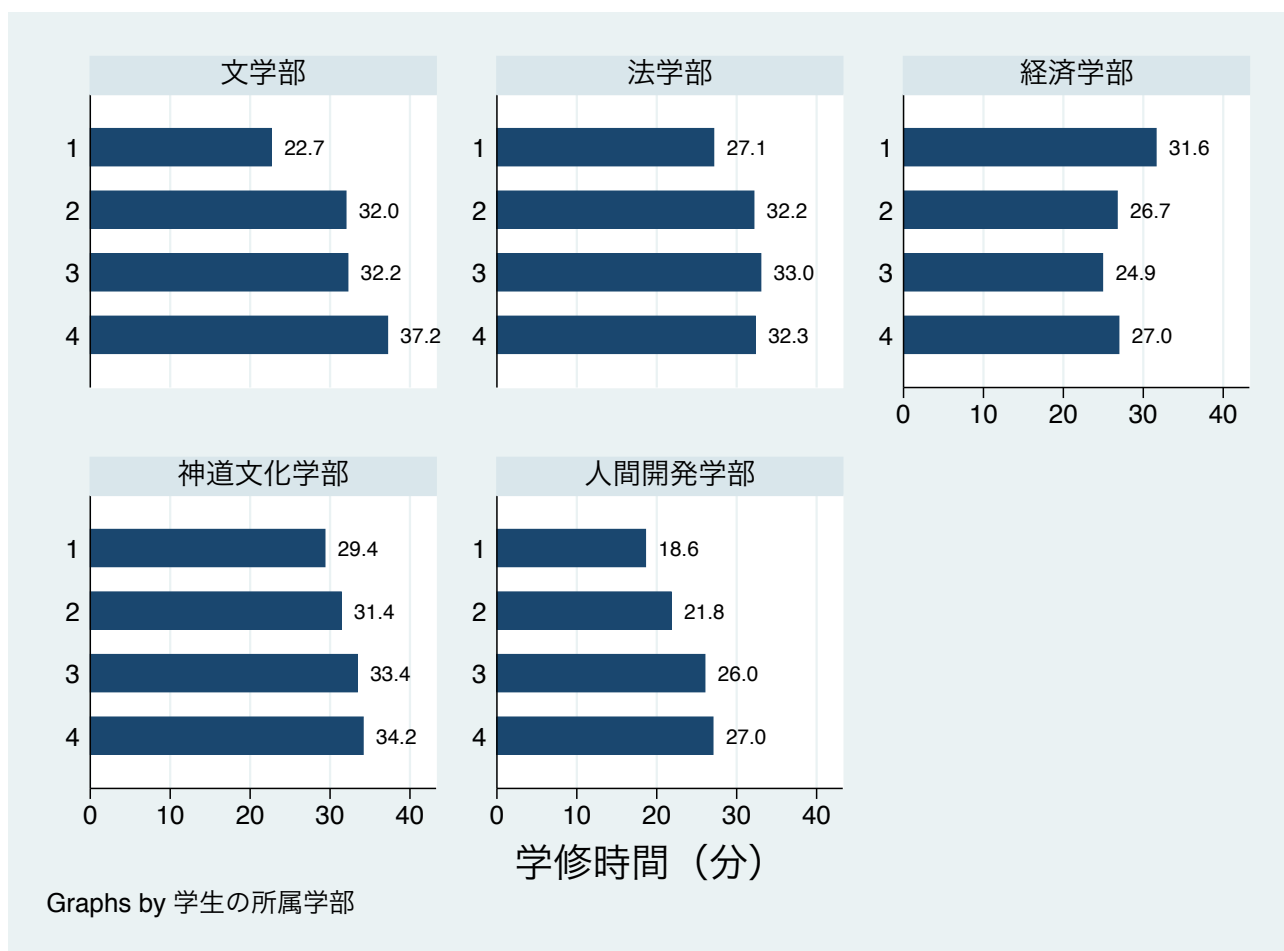


学生の所属学科別に見た学修時間の分布



#### 4-4 回答学生の学年・所属学部別

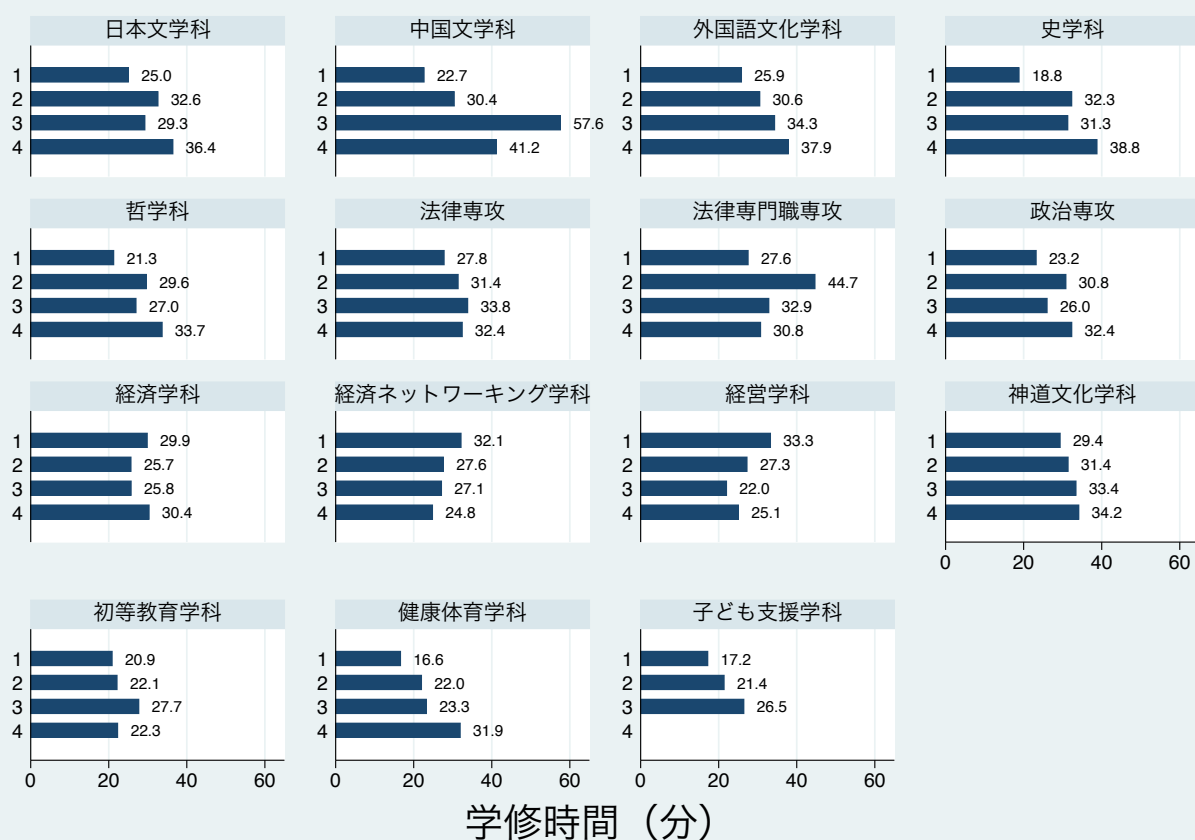
下のグラフは、1科目あたりの授業外学修時間について、アンケートに回答した学生の所属学部と学年別に、その平均値を図示したものです。これによると3つのタイプに分けられるようです。第一は「増加型」です。文学部、神道文化学部、人間開発学部は、学年が進行するにつれて学修時間が増える傾向にあるようです。第二は山型です。法学部は3年目に学修時間のピークがある結果となりました。第三は谷型です。経済学部は1年生と4年生の学修時間が多い傾向にありました。なぜこのような結果となったのか、継続的な調査が求められます。



学生の所属学部と学年別にみた学修時間の平均値

#### 4-5 回答学生の学年・所属学科別

下のグラフは、1科目あたりの授業外学修時間の分布を、アンケートに回答した学生の所属学科と学年別に集計して図示したものです。前ページで3つの類型に分類しましたが、同一学部内でも学修時間の分布の形状は異なるようです。例えば文学部は、日本文学科、史学科、哲学科の3学科に対して、中国文学科は山型、外国語文化学科は増加型のようなようです。なお全体的には、2,3年次に学修時間が伸びている学科とそうでない学科があり、2,3年次に学修時間を確保する方策が求められているようです。



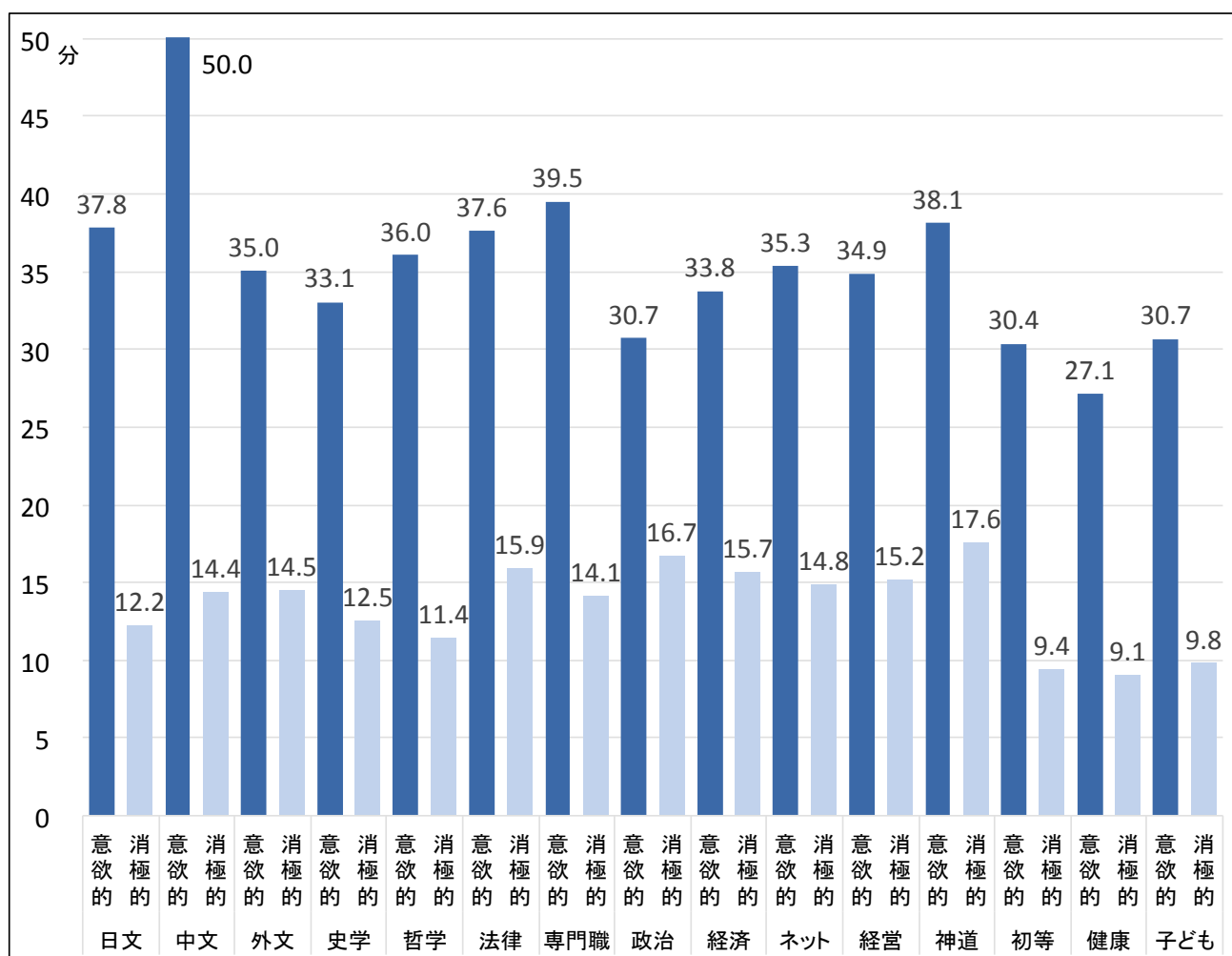
Graphs by 学生の所属学科

学生の所属学科と学年別にみた学修時間の分布

#### 4-6 回答学生の所属学科別にみた予習・復習への意欲と学修時間の差

下のグラフは、設問Q9「予習・復習をするなど授業に意欲的に取り組みましたか」について、「かなりそう思う」「そう思う」を肯定回答、「思わない」「あまりそう思わない」を否定回答に、前者を「意欲的」、後者を「消極的」と区分して、学生の所属学科別に授業外学修時間の平均値をみたものです。

これによると意識調査ではありますが、予習・復習に意欲的な学生と消極的な学生とでは、授業外学修時間に最小で約14分（政治学科）、最大では約36分（中国文学科）もの学修時間の差があることが明らかになりました。

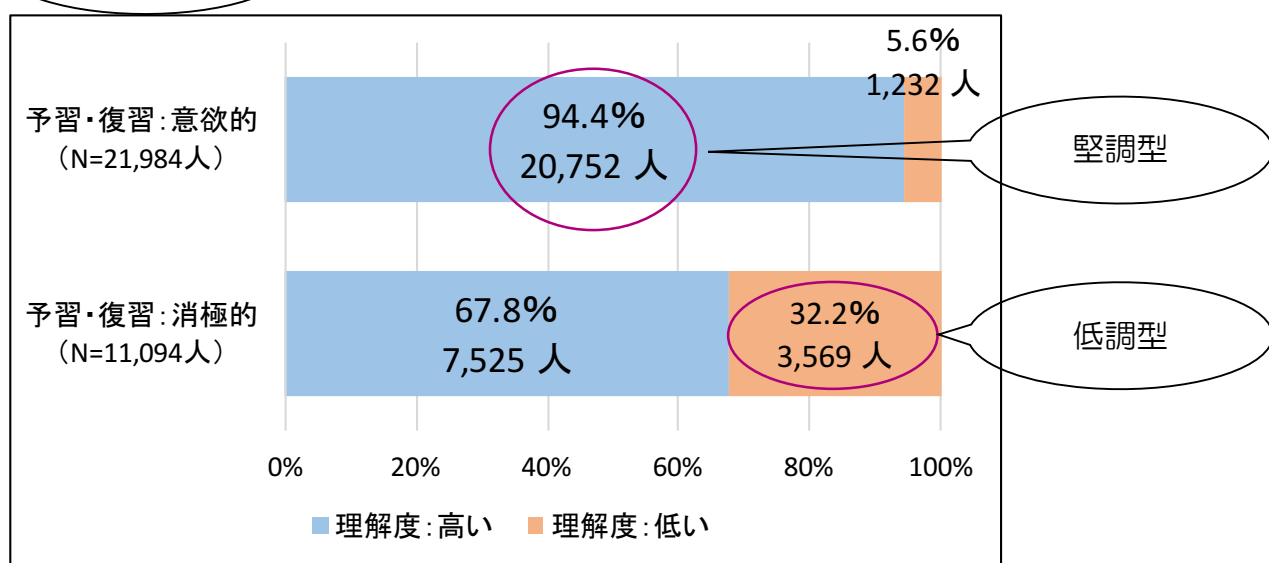


予習・復習の取組状況と学科別にみた授業外学修時間の平均値

#### 4-7 回答学生の予習・復習に対する意識と理解度による分析

下のグラフは、前ページと同様に設問Q9を「意欲的」と「消極的」に分け、さらに設問Q10「この授業を理解できましたか」を、「かなりそう思う」「そう思う」を「理解度が高い」、「思わない」「あまりそう思わない」を「理解度が低い」としてまとめ、クロス表にまとめたものです。以後は、「予習や復習に意欲的で理解度の高い学生＝堅調型」、「予習と復習に消極的で理解度の低い学生＝低調型」として、学部ごとにこの2つの型の授業外学修時間の分布をみてみたいと思います。

		理解度		合 計
		低い	高い	
予習・復習	意欲的	1,232 人	20,752 人	21,984 人
	%	5.6%	94.4%	100%
	消極的	3,569 人	7,525 人	11,094 人
	%	32.2%	67.8%	100%
合 計		4,801 人	28,277 人	33,078 人
%		14.5%	85.5%	100%

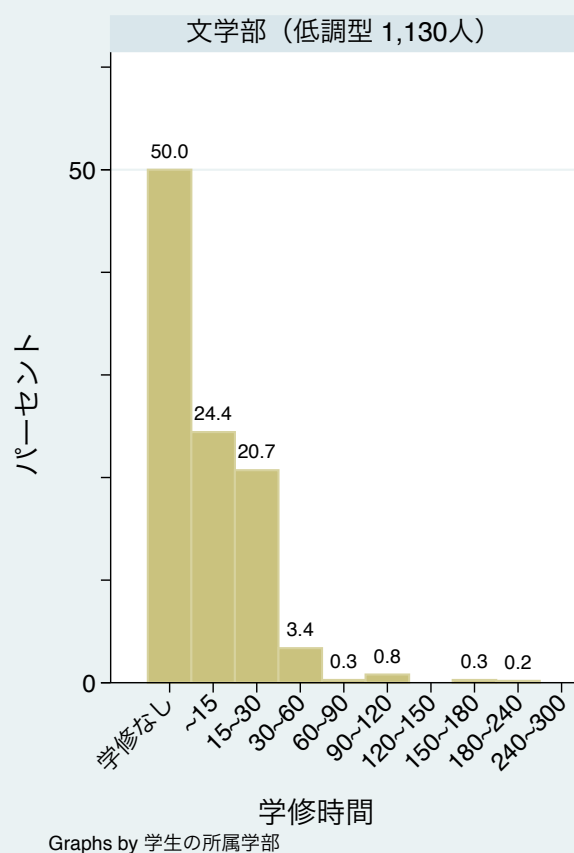
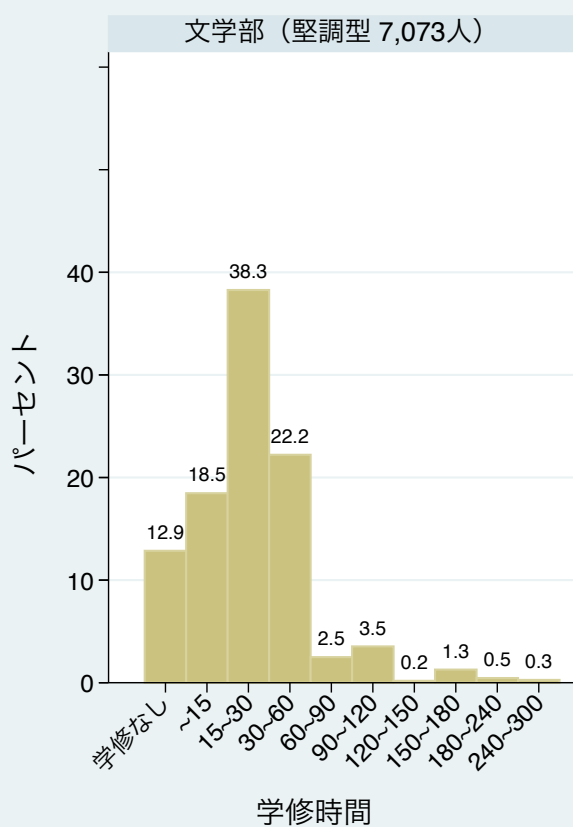


予習・復習と理解度による國學院学生の4類型

#### 4-8 予習・復習への意欲と理解度の差からみた学修時間

##### 【文学部】

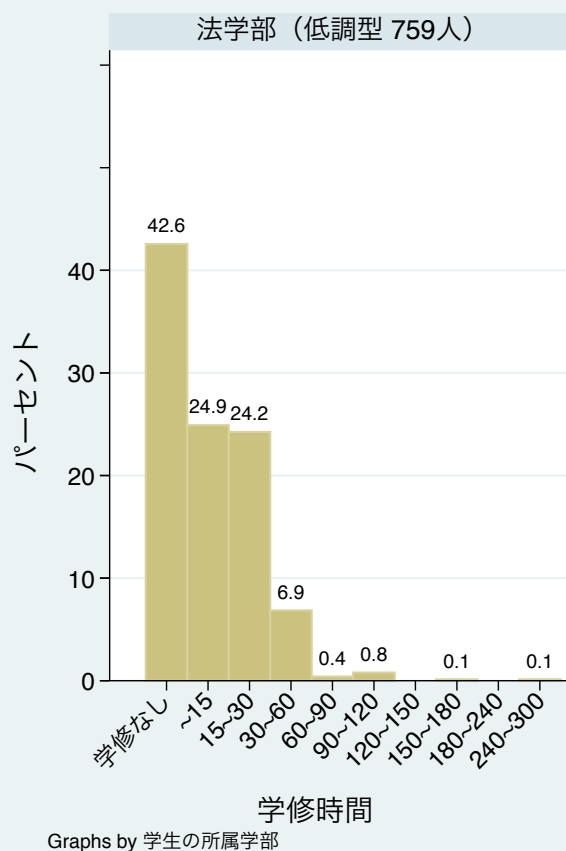
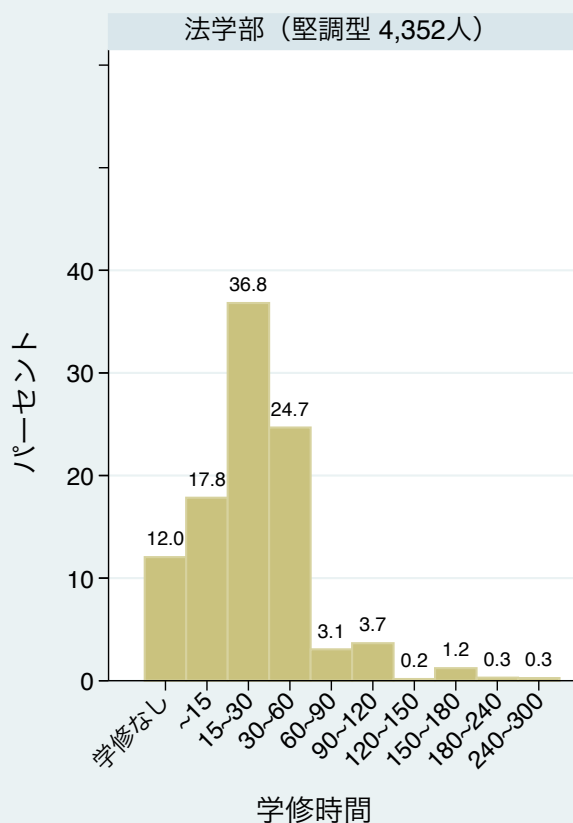
下のグラフは、文学部生を対象に、予習・復習への意欲と理解度の差から授業外学修時間の分布を図示したものです。文学部では堅調型が 7,073 人、低調型が 1,130 人という結果になりました。それぞれ分布をみると堅調型では 15 分～30 分以下が最も多く 38.3% となり、低調型では学修時間ゼロと答えた学生が 50% と全体の半分を占めました。その他として文学部の堅調型と低調型とでは、15 分～30 分以下、30 分～60 分以下と回答した学生層に大きな差があるようです。



堅調型と低調型の学修時間の分布：文学部

## 【法学部】

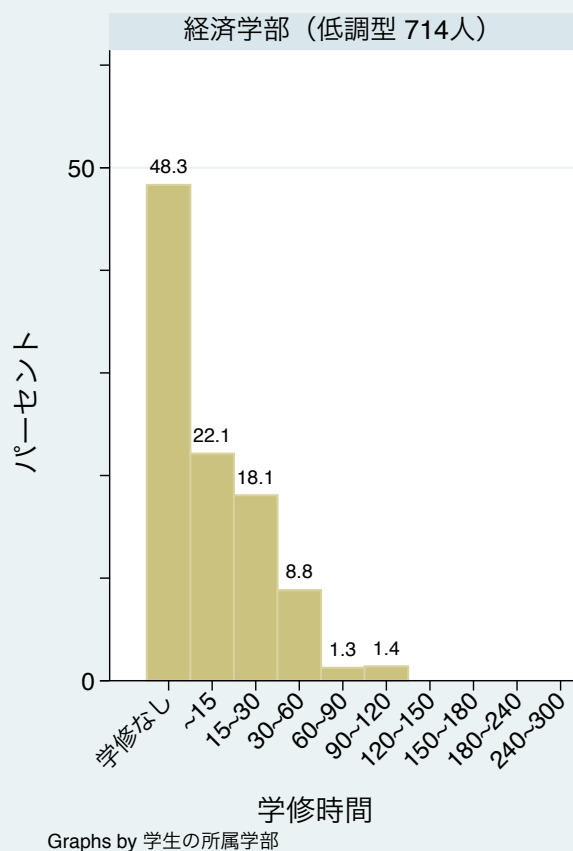
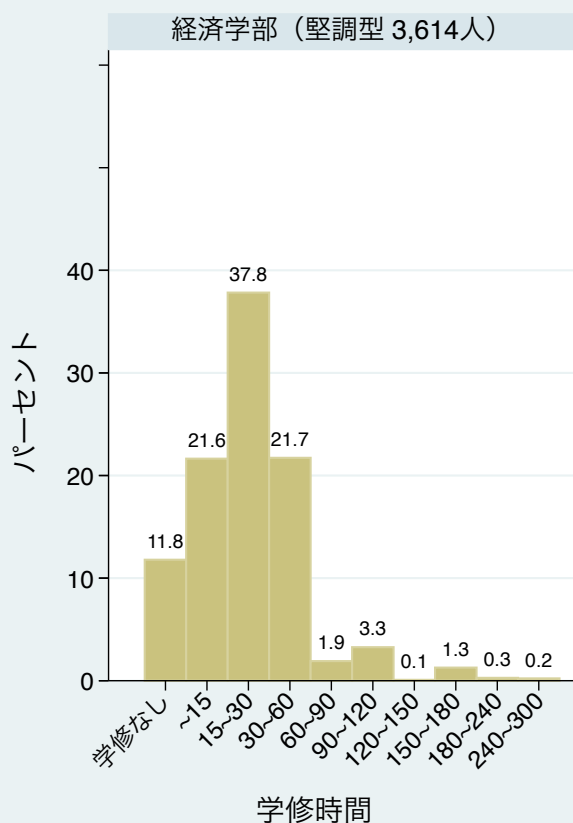
下のグラフは、法学部生を対象に、予習・復習への意欲と理解度の差から授業外学修時間の分布を図示したものです。法学部では堅調型が 4,352 人、低調型が 759 人という結果になりました。それぞれ分布をみると堅調型では 15 分～30 分以下が最も多く 36.8% となり、低調型では学修時間ゼロと答えた学生が 42.6% となりました。その他として法学部も文学部と同様に、堅調型と低調型とで、15 分～30 分以下、30 分～60 分以下と回答した学生層に大きな差があるようです。



堅調型と低調型の学修時間の分布：法学部

## 【経済学部】

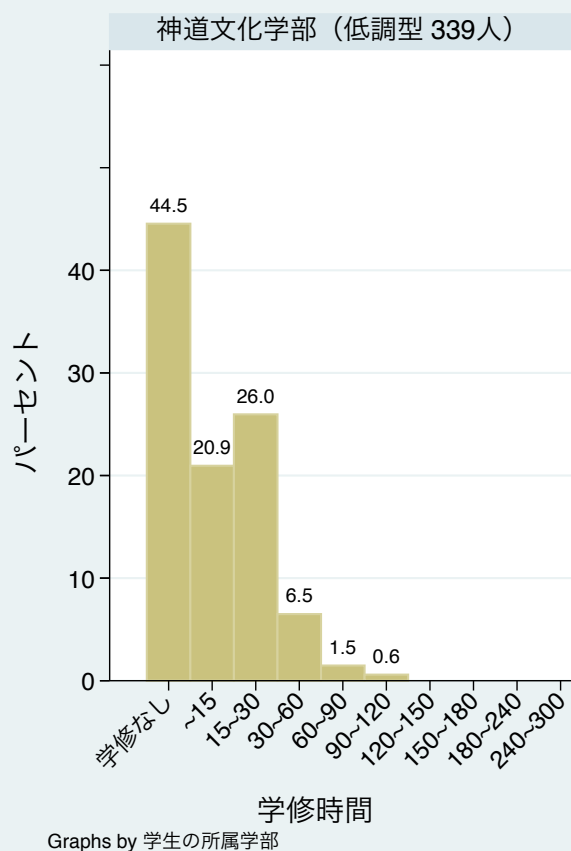
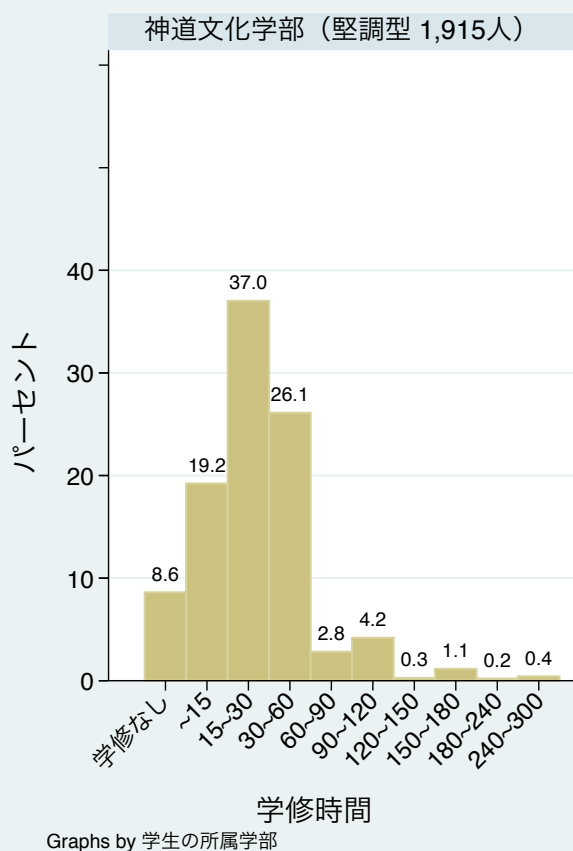
下のグラフは、経済学部生を対象に、予習・復習への意欲と理解度の差から授業外学修時間の分布を図示したものです。経済学部では堅調型が3,614人、低調型が714人という結果になりました。それぞれ分布をみると堅調型では15分～30分以下が最も多く37.8%となり、低調型では学修時間ゼロと答えた学生が48.3%となりました。その他として経済学部も堅調型と低調型とで、15分～30分以下、30分～60分以下と回答した学生層に大きな差があるようです。



堅調型と低調型の学修時間の分布：経済学部

## 【神道文化学部】

下のグラフは、神道文化学部生を対象に、予習・復習への意欲と理解度の差から授業外学修時間の分布を図示したものです。神道文化学部では堅調型が 1,915 人、低調型が 399 人という結果になりました。それぞれ分布をみると堅調型では 15 分～30 分以下が最も多く 37.0%となり、低調型では学修時間ゼロと答えた学生が 44.5%となりました。その他として神道文化学部の堅調型では、30 分～60 分以下が 26.1%となっており、他学部堅調型のそれと比べて、相対的に高い割合を示しています。

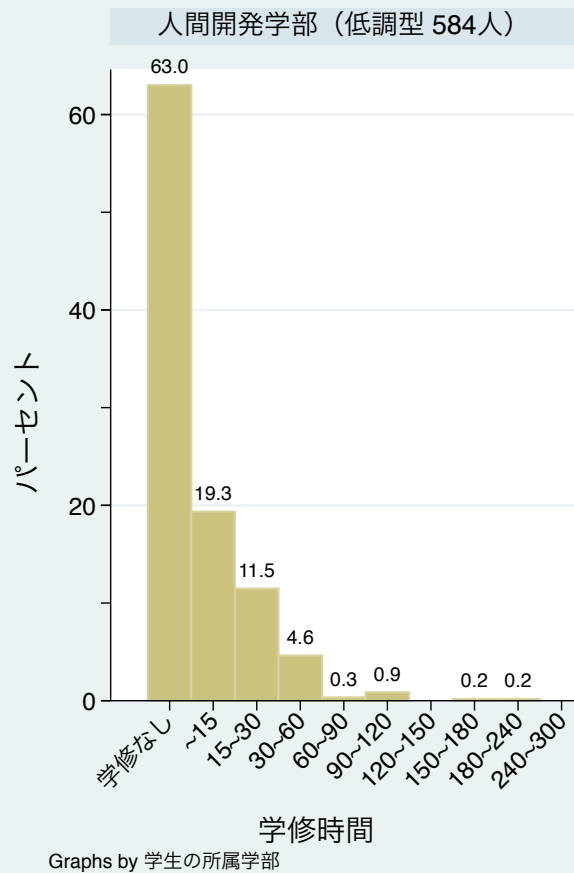
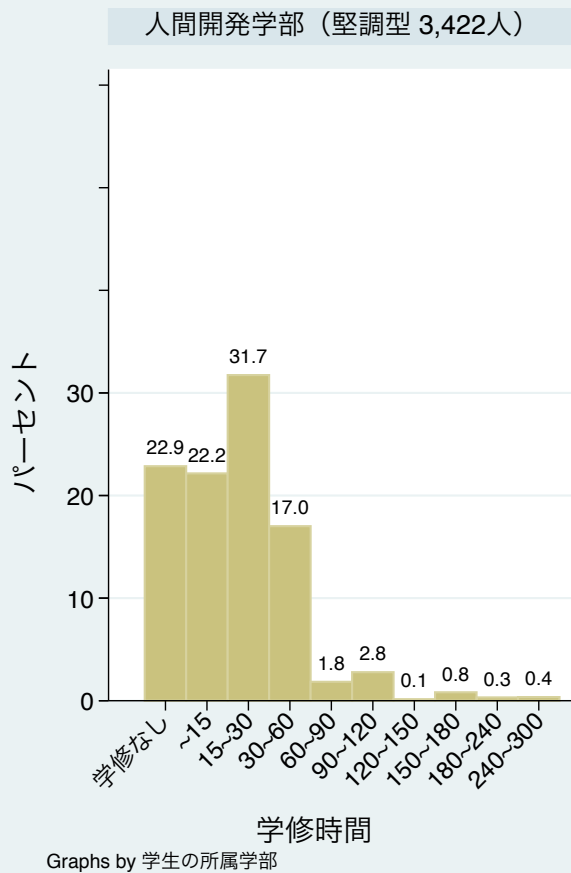


堅調型と低調型の学修時間の分布：神道文化学部



【人間開発学部】

下のグラフは、人間開発学部生を対象に、予習・復習への意欲と理解度の差から授業外学修時間の分布を図示したものです。人間開発学部では堅調型が 3,422 人、低調型が 584 人という結果になりました。それぞれ分布をみると堅調型では 15 分～30 分以下が最も多く 31.7% となり、低調型では学修時間ゼロと答えた学生が 60% を超え、全学部で最も高い割合となりました。この点と、堅調型の 15 分～30 分以下が他の学部と比べて割合が低いことを踏まえれば、人間開発学部では、学修時間ゼロと答えた学生を少なくする取組が必要であるといえそうです。



堅調型と低調型の学修時間の分布：人間開発学部



## 5. まとめ

これまで平成 27 年度後期授業評価アンケートについて、設問別に集計し検討してきました。これまでの集計結果は、以下の 3 つの観点からまとめられるように思います。

- 第一に教員を対象とした設問では、概ね肯定的な回答が得られました。ただし「学生の積極的な発言や参加を教員が促したか」(Q4)、「他の学生はこの授業に真面目に取り組んでいたか」(Q5)、「授業内容はシラバスに沿っていたか」(Q6)に関しては、「かなりそう思う」と回答した学生の割合が下がる傾向にありました。
- 第二に学生を対象とした設問では、「授業の満足度」(Q12)は高く、「授業の理解度」(Q10)も概ね肯定的な回答が得られました。その結果、「授業を受けて知識や能力が増大した」(Q17)と認識している学生が多いようです。他方で「シラバスをよく読んでこの授業を履修したか」(Q8)では、否定的な回答が散見され、「予習・復習への取組」(Q9)も、30%前後が意欲的に取り組んでいないという結果が明らかになりました。また授業が「将来の自分の生き方を考える上で役立ったか」(Q14)については学部間でばらつきがあり、「教員とのコミュニケーションがとれた」(Q15)と考えている学生は、50%程度にとどまっていることが明らかになりました。
- 第三に本学学士課程教育の授業外学修時間は、1 科目 1 回あたり 27.9 分という結果となりました。そして授業外学修時間がゼロ～15 分以内と回答した学生は、全体の 45.8%にもなり、60 分を超えた学生はわずか全体の 5.8%でした。授業外学修時間の分布は、学年、所属学部、所属学科で異なり、予習や復習に対する意識や理解度によっても大きな差があることも確認できました。授業外学修時間については、多様な視点からの検討が求められますが、本学学士課程教育における授業外学修時間が 30 分未満に多く分布している現状(「30 分問題」)について、教職員は強く認識する必要があるのではないのでしょうか。

以上が本アンケートの集計結果から明らかになった点といえます。最後にそこから明らかになった取り組むべき課題を述べ、締めくくることがとします。

- 課題として肯定回答が十分に得られなかった項目の改善が求められます。例えばシラバスに沿った授業運営や予習・復習の取組の徹底、教員との円滑なコミュニケーションの実現などです。先生方一人一人が集計結果から明らかになった問題点を認識し、さらには教員間で共有することで、本学全体の授業改善に繋がることを期待できます。
- さらには授業外学修時間の確保も大きな課題の一つです。我が国の単位制度では、2 単

位授業には 1 回の授業あたり 4 時間の授業外学修時間が求められます。ゆえに今回の結果、すなわち「30 分問題」は、大学の授業設計の根幹である単位制度の観点からも問題があるのは明白です。個々の授業科目レベルだけでなく、カリキュラムレベルでの授業外学修時間確保のための検討も求められています。

- 授業評価アンケート自体の検討も課題といえます。WEB 化により大きく低下した回答率の改善、設問項目の見直しによる具体的な授業改善指標の探索的分析、分析結果の公表方法など、本学学士課程教育の質保証に寄与する基礎的データの提供に向けた、授業評価アンケートそのものの改善が求められます。

## 資料編

## 集計データ

### 1. 回答者のプロフィール

#### ● 学年

学年	回答者数	%	男性		女性	
			回答者数	対全体%	回答者数	対全体%
1年生	13,272	40.1	6,752	20.4	6,450	19.5
2年生	9,673	29.2	4,997	15.1	4,676	14.1
3年生	7,188	21.7	3,782	11.4	3,406	10.3
4年生	2,945	8.9	1,871	5.7	1,074	3.2
合計	33,078	100	17,402	52.6	15,606	47.2

\*科目等履修生（70人）は性別が登録されていないため、全体の回答者数と性別の回答者数の合計とでは数値が異なる。

#### ● 所属学部

学部	回答者数	%	男性		女性	
			回答者数	対全体%	回答者数	対全体%
文学部	11,367	34.4	4,493	13.6	6,874	20.8
法学部	6,798	20.6	4,479	13.5	2,319	7.0
経済学部	5,806	17.6	3,920	11.9	1,886	5.7
神道文化学部	3,001	9.1	1,971	6.0	1,030	3.1
人間開発学部	5,958	18.0	2,486	7.5	3,472	10.5
別科専攻科科目等	148	0.5	53	0.2	25	0.1
合計	33,078	100	17,402	52.6	15,606	47.2

\*科目等履修生（70人）は性別が登録されていないため、全体の回答者数と性別の回答者数の合計とでは数値が異なる。

● 所属学科

学部	回答者数	%	男性		女性	
			回答者数	対全体%	回答者数	対全体%
日本文学科	4,841	14.6	1,279	3.9	3,562	10.8
中国文学科	589	1.8	260	0.8	329	1.0
外国語文化学科	1,422	4.3	381	1.2	1,041	3.1
史学科	3,648	11.0	2,164	6.5	1,484	4.5
哲学科	867	2.6	409	1.2	458	1.4
法律専攻	5,559	16.8	3,668	11.1	1,891	5.7
法律専門職専攻	457	1.4	244	0.7	213	0.6
政治専攻	782	2.4	567	1.7	215	0.6
経済学科	2,279	6.9	1,779	5.4	500	1.5
経済ネットワーク学科	1,754	5.3	1,093	3.3	661	2.0
経営学科	1,773	5.4	1,048	3.2	725	2.2
神道文化学科	3,001	9.1	1,971	6.0	1,030	3.1
初等教育学科	2,109	6.4	994	3.0	1,115	3.4
健康体育学科	1,805	5.5	1,321	4.0	484	1.5
子ども支援学科	2,044	6.2	171	0.5	1,873	5.7
別科	12	0.0	12	0.0	0	0.0
専攻科	66	0.2	41	0.1	25	0.1
科目等履修生	70	0.2				
合計	33,078	100	17,402	52.6	15,606	47.2

\*科目等履修生（70人）は性別が登録されていないため、全体の回答者数と性別の回答者数の合計とでは数値が異なる。



● 単純集計表

【学士課程教育全体】

区分	No	設 問	かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
教員 対象	Q1	教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。	37.1	51.4	8.8	2.6			
	Q2	板書や教材は理解の助けになりましたか。	35.6	53.0	8.8	2.6			
	Q3	教員は意欲的に授業を進めていましたか。	46.0	49.5	3.3	1.3			
	Q4	教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。	34.0	46.0	15.3	4.8			
	Q5	他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。	25.5	55.9	15.0	3.6			
	Q6	授業の内容はシラバスに沿っていましたか。	30.7	64.0	4.1	1.2			
学生 対象			すべて出席 (100%)	ほとんど 出席 (80%以上)	3分の2 程度出席 (60%以上)	半分くらい 出席 (50%以上)	3分の1 程度出席 (30%以上)	ほとんど 出席なし (30%未満)	
	Q7	この授業にどの程度出席しましたか。	35.0	53.0	10.5	0.5	0.7	0.4	
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
	Q8	シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。	27.5	51.9	14.9	5.7			
	Q9	予習・復習をするなど授業に意欲的にとりくみましたか。	19.7	46.8	26.9	6.7			
	Q10	この授業を理解できましたか。	22.4	63.1	12.0	2.6			
	Q11	授業のテーマへの関心が高まりましたか。	32.3	53.4	11.2	3.1			
	Q12	この授業を履修して良かったですか。	37.2	52.2	7.6	3.0			
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない	無回答		
	Q13	この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。*人間開発学部の授業科目のみ回答	36.0	51.1	8.4	3.3	1.3		
	Q14	この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。	27.9	53.4	15.1	3.6			
	Q15	あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。	16.7	35.1	33.1	15.0			
	Q16	この授業1回あたりの授業外学修(予習復習課題等)時間は、平均でおおよそ何分ですか。*0分から300分の範囲で、算用数字で記入して下さい。	最小値	最大値	中央値	平均値			
0分			300分	20分	27.9分				
Q17	この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。	27.8	60.5	9.3	2.5				
共通	Q18	この授業でとても良いと思ったことを書いてください。	省 略						
	Q19	この授業で改善した方が良かったことを書いてください。							

\*上記の集計結果は、学士課程学生のほか、別科・専攻科・科目等履修生も含めて集計した結果である。

\*ただしQ13のみ、人間開発学部に所属する学生のみを対象とした集計結果である。

【文学部学生】

区分	No	設 問	かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
教員 対象	Q1	教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。	38.6	50.9	8.3	2.2			
	Q2	板書や教材は理解の助けになりましたか。	36.9	52.4	8.4	2.3			
	Q3	教員は意欲的に授業を進めていましたか。	48.5	47.8	2.6	1.1			
	Q4	教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。	35.1	44.6	15.8	4.4			
	Q5	他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。	25.8	57.1	14.2	3.0			
	Q6	授業の内容はシラバスに沿っていましたか。	31.4	63.5	4.0	1.1			
学生 対象			すべて出席 (100%)	ほとんど 出席 (80%以上)	3分の2 程度出席 (60%以上)	半分くらい 出席 (50%以上)	3分の1 程度出席 (30%以上)	ほとんど 出席なし (30%未満)	
	Q7	この授業にどの程度出席しましたか。	36.9	51.7	10.3	0.4	0.5	0.2	
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
	Q8	シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。	29.6	51.1	13.5	5.9			
	Q9	予習・復習をするなど授業に意欲的にとりくみましたか。	20.3	46.5	26.9	6.4			
	Q10	この授業を理解できましたか。	22.0	64.1	11.6	2.2			
	Q11	授業のテーマへの関心が高まりましたか。	34.0	51.8	11.4	2.9			
	Q12	この授業を履修して良かったですか。	39.3	50.7	7.3	2.7			
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない	無回答		
	Q13	この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。*人間開発学部の授業科目のみ回答							
	Q14	この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。	26.0	52.3	17.8	3.9			
	Q15	あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。	15.9	33.3	35.7	15.1			
	Q16	この授業1回あたりの授業外学修(予習復習課題等)時間は、平均でおおよそ何分ですか。*0分から300分の範囲で、算用数字で記入して下さい。	最小値	最大値	中央値	平均値			
0分			300分	20分	28.5分				
Q17	この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。	28.5	60.5	8.8	2.2				
共通	Q18	この授業でとても良いと思ったことを書いてください。	省 略						
	Q19	この授業で改善した方が良いと思ったことを書いてください。							

\*上記の集計結果は、回答した学生の所属学部(この場合は文学部)によって集計した結果である。

【法学部学生】

区分	No	設 問	かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
教員 対象	Q1	教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。	39.0	50.4	8.0	2.7			
	Q2	板書や教材は理解の助けになりましたか。	36.0	53.5	7.8	2.7			
	Q3	教員は意欲的に授業を進めていましたか。	45.3	50.5	3.0	1.2			
	Q4	教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。	34.4	44.8	15.3	5.6			
	Q5	他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。	26.2	55.7	14.1	3.9			
	Q6	授業の内容はシラバスに沿っていましたか。	32.9	62.7	3.3	1.1			
学生 対象			すべて出席 (100%)	ほとんど 出席 (80%以上)	3分の2 程度出席 (60%以上)	半分くらい 出席 (50%以上)	3分の1 程度出席 (30%以上)	ほとんど 出席なし (30%未満)	
	Q7	この授業にどの程度出席しましたか。	29.6	54.6	12.8	0.9	1.3	0.8	
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
	Q8	シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。	30.4	55.5	10.1	4.1			
	Q9	予習・復習をするなど授業に意欲的にとりくみましたか。	20.9	47.7	25.3	6.2			
	Q10	この授業を理解できましたか。	23.2	61.7	12.5	2.6			
	Q11	授業のテーマへの関心が高まりましたか。	30.8	55.5	10.7	3.0			
	Q12	この授業を履修して良かったですか。	36.1	53.7	7.4	2.8			
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない	無回答		
	Q13	この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。*人間開発学部の授業科目のみ回答							
	Q14	この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。	26.8	55.6	14.3	3.3			
	Q15	あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。	16.6	33.9	32.2	17.3			
	Q16	この授業1回あたりの授業外学修(予習復習課題等)時間は、平均でおおよそ何分ですか。*0分から300分の範囲で、算用数字で記入して下さい。	最小値	最大値	中央値	平均値			
0分			300分	30分	30.3分				
Q17	この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。	27.1	61.5	9.1	2.3				
共通	Q18	この授業でとても良いと思ったことを書いてください。	省 略						
	Q19	この授業で改善した方が良かったことを書いてください。							

\*上記の集計結果は、回答した学生の所属学部(この場合は法学部)によって集計した結果である。

【経済学部学生】

区分	No	設 問	かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
教員 対象	Q1	教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。	35.1	51.9	9.6	3.4			
	Q2	板書や教材は理解の助けになりましたか。	34.5	52.3	10.0	3.3			
	Q3	教員は意欲的に授業を進めていましたか。	43.3	50.5	4.6	1.6			
	Q4	教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。	31.1	47.6	16.2	5.1			
	Q5	他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。	24.7	54.0	16.8	4.4			
	Q6	授業の内容はシラバスに沿っていましたか。	30.7	63.2	4.5	1.5			
学生 対象			すべて出席 (100%)	ほとんど 出席 (80%以上)	3分の2 程度出席 (60%以上)	半分くらい 出席 (50%以上)	3分の1 程度出席 (30%以上)	ほとんど 出席なし (30%未満)	
	Q7	この授業にどの程度出席しましたか。	33.1	54.9	10.1	0.6	0.8	0.5	
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
	Q8	シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。	30.3	54.8	11.0	3.9			
	Q9	予習・復習をするなど授業に意欲的にとりくみましたか。	18.7	48.3	26.3	6.8			
	Q10	この授業を理解できましたか。	22.2	61.5	13.4	2.9			
	Q11	授業のテーマへの関心が高まりましたか。	29.8	54.8	12.0	3.5			
	Q12	この授業を履修して良かったですか。	34.7	53.4	8.5	3.3			
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない	無回答		
	Q13	この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。*人間開発学部の授業科目のみ回答							
	Q14	この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。	26.7	53.6	15.9	3.9			
	Q15	あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。	16.7	35.9	31.4	16.1			
	Q16	この授業1回あたりの授業外学修(予習復習課題等)時間は、平均でおおよそ何分ですか。*0分から300分の範囲で、算用数字で記入して下さい。	最小値	最大値	中央値	平均値			
0分			300分	20分	28.9分				
Q17	この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。	24.6	61.0	11.4	3.1				
共通	Q18	この授業でとても良いと思ったことを書いてください。	省 略						
	Q19	この授業で改善した方が良かったことを書いてください。							

\*上記の集計結果は、回答した学生の所属学部(この場合は経済学部)によって集計した結果である。

【神道文化学部学生】

区分	No	設 問	かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
教員 対象	Q1	教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。	35.7	52.9	9.1	2.4			
	Q2	板書や教材は理解の助けになりましたか。	36.0	53.3	8.4	2.4			
	Q3	教員は意欲的に授業を進めていましたか。	45.7	49.3	3.7	1.3			
	Q4	教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。	31.1	47.5	16.1	5.3			
	Q5	他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。	20.8	58.7	17.0	3.6			
	Q6	授業の内容はシラバスに沿っていましたか。	29.0	65.9	4.0	1.2			
学生 対象			すべて出席 (100%)	ほとんど 出席 (80%以上)	3分の2 程度出席 (60%以上)	半分くらい 出席 (50%以上)	3分の1 程度出席 (30%以上)	ほとんど 出席なし (30%未満)	
	Q7	この授業にどの程度出席しましたか。	28.6	57.2	12.8	0.4	0.5	0.5	
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
	Q8	シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。	24.9	55.3	14.2	5.7			
	Q9	予習・復習をするなど授業に意欲的にとりくみましたか。	17.4	51.4	25.5	5.8			
	Q10	この授業を理解できましたか。	19.8	64.8	12.8	2.6			
	Q11	授業のテーマへの関心が高まりましたか。	32.9	53.0	11.1	3.1			
	Q12	この授業を履修して良かったですか。	37.2	52.6	7.1	3.2			
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない	無回答		
	Q13	この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。*人間開発学部の授業科目のみ回答							
	Q14	この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。	30.0	52.6	13.9	3.5			
	Q15	あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。	14.6	33.6	36.2	15.7			
	Q16	この授業1回あたりの授業外学修(予習復習課題等)時間は、平均でおおよそ何分ですか。*0分から300分の範囲で、算用数字で記入して下さい。	最小値	最大値	中央値	平均値			
0分			300分	30分	31.7分				
Q17	この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。	27.7	60.9	9.2	2.2				
共通	Q18	この授業でとても良いと思ったことを書いてください。	省 略						
	Q19	この授業で改善した方が良かったことを書いてください。							

\*上記の集計結果は、回答した学生の所属学部(この場合は神道文化学部)によって集計した結果である。

## 【人間開発学部学生】

区分	No	設 問	かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
教員 対象	Q1	教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか。	34.4	52.6	10.2	2.9			
	Q2	板書や教材は理解の助けになりましたか。	33.1	54.5	9.6	2.8			
	Q3	教員は意欲的に授業を進めていましたか。	44.1	50.9	3.6	1.4			
	Q4	教員は授業中、学生に対して積極的な発言や参加を促していましたか。	35.1	47.6	13.3	4.0			
	Q5	他の履修学生は、この授業にまじめに取り組んでいましたか。	27.4	54.0	14.9	3.8			
	Q6	授業の内容はシラバスに沿っていましたか。	27.2	66.3	5.1	1.5			
学生 対象			すべて出席 (100%)	ほとんど 出席 (80%以上)	3分の2 程度出席 (60%以上)	半分くらい 出席 (50%以上)	3分の1 程度出席 (30%以上)	ほとんど 出席なし (30%未満)	
	Q7	この授業にどの程度出席しましたか。	42.2	49.5	7.5	0.3	0.3	0.2	
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない			
	Q8	シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか。	18.8	44.7	27.4	9.2			
	Q9	予習・復習をするなど授業に意欲的にとりくみましたか。	19.0	42.6	30.1	8.4			
	Q10	この授業を理解できましたか。	23.7	63.3	10.2	2.8			
	Q11	授業のテーマへの関心が高まりましたか。	32.6	53.5	10.7	3.1			
	Q12	この授業を履修して良かったですか。	36.4	52.6	7.7	3.3			
			かなり そう思う	そう思う	あまり そう思わない	思わない	無回答		
	Q13	この授業は指導者の資質を備える上で役に立ったと思いますか。*人間開発学部の授業科目のみ回答	36.0	51.1	8.4	3.3	1.3		
	Q14	この授業は将来の自分の生き方を考える上で役に立ったと思いますか。	32.6	53.2	11.0	3.2			
	Q15	あなたは、質問をするなどして担当教員と積極的にコミュニケーションをとりましたか。	19.3	39.8	29.8	11.1			
	Q16	この授業1回あたりの授業外学修(予習復習課題等)時間は、平均でおおよそ何分ですか。*0分から300分の範囲で、算用数字で記入して下さい。	最小値	最大値	中央値	平均値			
			0分	300分	10分	21.7分			
Q17	この授業を受けて、知識や能力が増大したと思いますか。	29.8	59.2	8.4	2.7				
共通	Q18	この授業でとても良いと思ったことを書いてください。	省 略						
	Q19	この授業で改善した方が良いと思ったことを書いてください。							

\*上記の集計結果は、回答した学生の所属学部（この場合は人間開発学部）によって集計した結果である。

分析・執筆 戸村 理 教育開発推進機構助教

## 平成 27 年度 教育開発センター委員

(委員長) 柴崎 和夫 教育開発推進機構長・教育開発センター長  
仙北谷穂高 教育開発センター副センター長・教学事務次長  
大久保桂子 共通教育センター長・教務部長  
樋口 秀実 文学部教授  
川合 敏樹 法学部准教授  
中田 有祐 経済学部助教  
遠藤 潤 神道文化学部准教授  
伊藤 英之 人間開発学部助教  
新井 大祐 教育開発推進機構准教授  
小濱 歩 教育開発推進機構准教授  
戸村 理 教育開発推進機構助教  
中條 豊 教育開発推進機構事務課主幹

### 平成 27 (2015) 年度後期 授業評価アンケート報告書

編集・発行 國學院大學 教育開発推進機構  
教育開発センター

平成 28 年 6 月 22 日